

室堂から立山を望む

空の美術館

広い背空いっぱい
 展覧会が開かれる
 空高く 扇毛でこすったような
 巻雲
 鳥が飛んでいるように
 すじのように
 魚の骨のように見える
 偏西風にのり流されていく
 雲の森がひろがっているような
 積雲
 大雪海の向こうの雄大な眺望
 ハイマツの緑に覆われた広い稜線
 青い空にわきあがる積乱雲
 夏の暑い日は大きなかたまり
 塔のようになって発達していく
 雲の上部が平らになると鉄灰雲



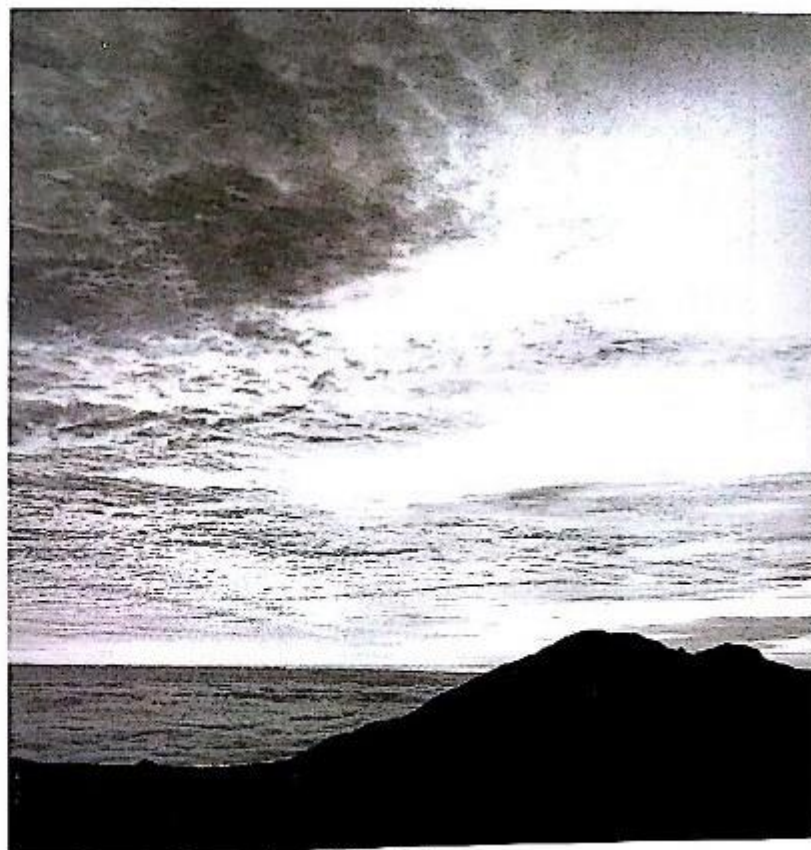
曇らず山脈に雲が流れた。

Photo essay

くも

題

題字 中田 龍石
 撮影 由井 収一
 文 松永 恵一



朝焼けはきれいですか。夕焼けは美しいですか。



ヨイマチグサ

季節の



田



ヌスビトハギ

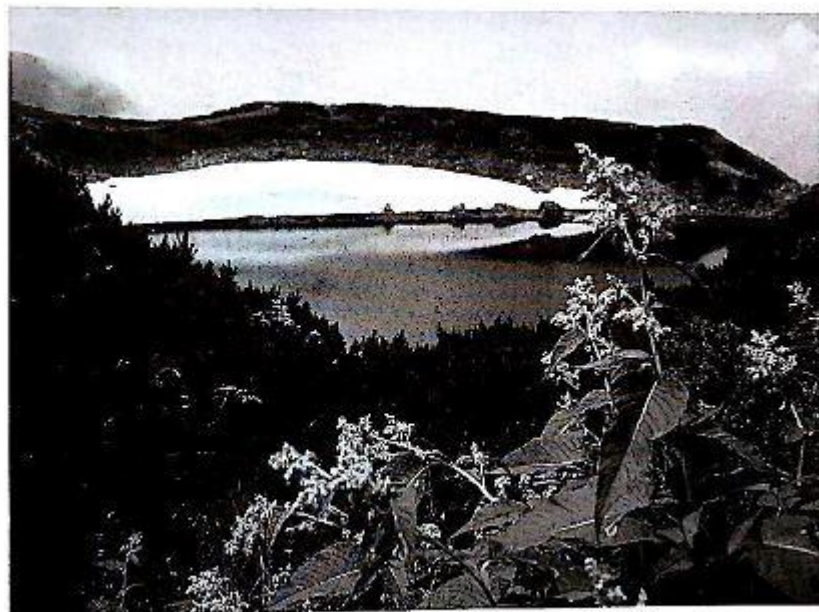
実景

撮影 武市通治

盛夏



杉木立

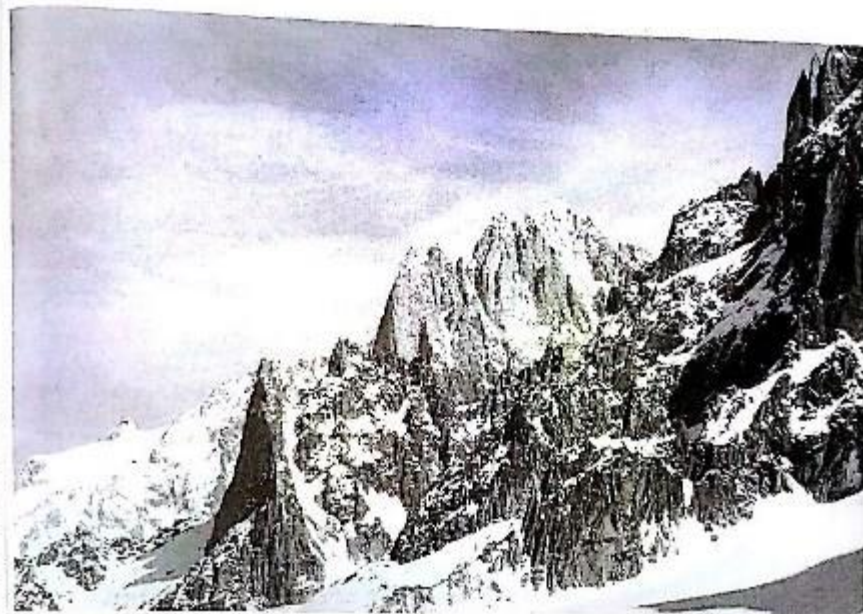


立山にて



エギデミディよりレ・ブラバンを望む

平井 康晴



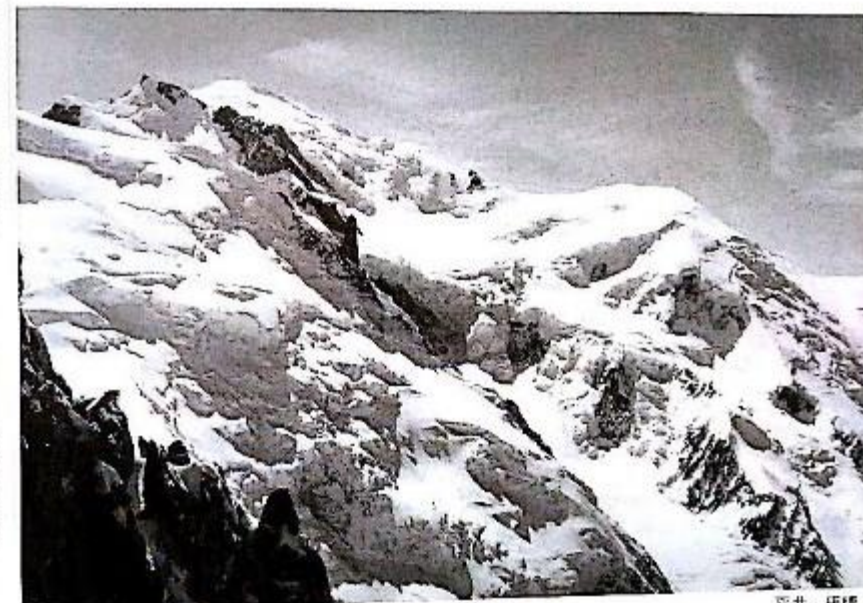
シャモニー針峰群

平井 康晴



登山者とフランスアルプス (後方はグランジョラス(左)とダンディジュアン(右))

平井 康晴



モンブラン4807m

平井 康晴



フアミリーハイク

伊澤 康夫

鈴鹿山系、神向山の麓に生まれ
た私は、農村の豊かな自然に恵ま
れて育った。村内の小川、日野川
での釣り、鳥の手づかみ、近くの
山での冒険……夏、日が暮れる
まで遊んだものである。最近では田
舎でも遊業が大流行で、子供達
は遊びが下手で特米が染じられ
る。宇南人ではあるまいが、手足
が細く、頭だけ大きな遊卒人間が、
田舎を遊歩するようになるのなか
と思ふと、ソツとする。

我が子だけは宇南人に行てたく
はない。幼少のころから、歩く速
しみを身につけさせるため、幼稚園
の通園は天候に関係なく、妻と
歩かせることにした。道端の花に
心を奪われ、雨の日は水たまりで遊
び、鈴鹿、比良山系の登山靴をし
た山に美しさを感ぜながら歩いた
ことだろう。おかげで歩くことに

喜びを感じ、足腰が強くなり、たくま
しく育ってくれた。

長女五歳、長男三歳からキャン
プを始め、富士山麓の長大なクラ
ウン大踏路キャンプ場まで一日三日
したときのことである。やはりし
い地形に恵まれたので、富士山五
合目から八合目までを親子四人で
登ったのをきっかけに、妻も後身
時代に山歩きを経験があったの
で、フアミリーハイクを始めると
にした。

最初は近郊の山、鈴鹿、比良山
系の登山ハンクで足慣らしをし
た。手をつないで歩き、少し歩い
てはオヤツを食べていたが、子供
達の成長はめざましいものがある。
最近では私達夫婦よりもはる
かに強くなり、山に慣れ、ガレ場
クサリ場等、ドンドン先を歩くよ
うになってしまった。強くなると
しく育ち、自然と共に生きる心が
芽生え、家族が互いに協力してこ
そ、無事山登りが出来るのだと、
白子の体で全裸してくれたのは何
よりの収穫であり、しみじみと幸

せを噛みしめている。

子供達の成長に伴い、日常の生
活はバラバラになりがちである
が、フアミリーハイクは家族共通
のものである。そして登山を通じ
て培った教訓の数々……

- 1、強くなると、
- 2、己に強く他人に優しく
- 3、自然とともに
- 4、寛大な心
- 5、互いに協力しあう

強弱は、はげましいあい
は、将来、社会人になったとき子
供達の心の糧となることを信じて
やまない。

宇野山、白山・熊野山、御在
座・鎌ヶ岳・弥山・白馬三山等
の登山を神向山・金剛山・鈴鹿山
等の登山の写真を目立つアルバム
を見ながら、子供達は「お父さん
山もいろいろ、たまには遊園地に
も連れてって」と言う。

「そういえば長いあいだ、山以
外は何もへん行ってないぞー」
食堂に訪つてあるいくつかの山
旅写真を見ながらの夕食時……



随想 (山のエッセイ)

克

「それはそうとして、次の山行
きは何処にしようかな」と相談
する。子供達の意見を聞きながら、
家族の心はすでに山の頂きへ。
互いの絆を深め合いながらの回
響のひとときである。もうすぐ夏
休み、今年の夏山は、四国の石鎚
山と剣山に決まろう。

「岳沢のアキちゃん」

野藤 哲哉

旅行バスで上高地に入り、湖沢
―北穂高―奥穂高―前穂高―穂高
と散走してきた。今夜は、岳沢で
キャンプをしていた。
20時を過ぎた頃のことだった。
そろそろ寝ようと思ひ、シヤラン
に入った。すると、上の方からか
すかに声が聞こえてきた。お母か
なと思つた。だがその声はどなた
と近づいてくる。懐中電灯の光の
跡も見えた。やはり誰か下山して
きたのだ。テントから顔を出して
見ると、親子連れらしき二人が、

「やっとなつたな」と言いな
がら下つてきた。雨をかけるよ、
父親が気づいて、子供が足が滑い
と驚い出したので、自分のザック
を途中ではうり出して子供を背負
ってきたのだ、という。父親は、
ザックを降つてくる間、子供を預
かてほしいと言つた。子供を預
けてきた山道を引き返した。
子供をテント内へ招いた。二人
用なので、狭くはない。

「お茶でも飲むか？」と聞くと、
「今、水筒の水を飲みましたばか
りなの、ほら、おなかがチャボテ
マボだよ」と、自分の腹を両手で
たたいてみせた。

「アキちゃんはね、山を下りたく
ないの」

その子は、自分のことを「アキ
ちゃん」と呼んでいた。

「山を下りると、藤井寺の傍に
行かなくちゃならないの。注射う
つんだよ。こんなに太いの、アキ
ちゃんには足が悪いの……」

「なあ、藤井寺って大塚の藤井寺
か？」

「うん、そうだよ」
「俺、真部から来たんや。同じ廣
西やな」

「うん、同じだ同じだ」
アキちゃんは、とても元気だつ
た。それから、アキちゃんは、今
日湖沢から歩いてきたことや、ク
リスマスパーティーはやつたのに
お母さんのパーティーはしてけれ
なかつた、といった子供らしい話
もしてくれた。

30分もたたないうちに、父親が
戻ってきた。

「いやあ、しんどくてしんどく
て」

そりや、疲れた体で真っ暗な山
道を一人で登り返すのはしんどい
だろう。

「今夜は岳沢ヒュッチに泊まりま
す。ザックは明日探検することにし
ました」そう言うと、アキちゃんを
背負った。

「ありがとさ、お見ちゃん」
「じゃあな、バイバイ」と愛ほ
手を振つて見送つた。



随想 (山のエッセイ)

テント内に静けさが戻った。先程の出来事が夢のように思えてくる。そろそろ寝るとしよう。

「旅人かへらず」

山田 博利

「旅人」にはいろいろな意味がある。一般にはtravelerであるが、物見遊山はさじ。人生の旅とか芭蕉の「旅人の思ひやます……」等はjourneysである。戦前の旧制高校等の山友会は「〇〇旅行部」と言った。やはり山岳談話は「Journale」のたろ。

登山には旅-Journeysが何となくロマンチックである。古今東西の文人ニーマニス。詩人も書びは、ヨク旅をした。ゲーテを始め、芭蕉・蕪村・山頭火……山頭火の句に、分け入っても分け入ってもある。若山牧水の有名な歌、秋山響越え去り行かば



随想 (山のエッセイ)

の人間が滑んである。近代人と旅人がある。ところが自分の中にもう一人の人間が潜む。これは生命の神秘、宇宙水鏡の神秘に属するものか、通常の理知や他覚では解決できない切り切れない人間がある。これを自分は「幻影の人間」と呼びまた水鏡の旅人とも考える。」と書いてある。「旅人かへらず」は、自然「旅」幻影の人間「水鏡」の旅人を歌い上げた詩題である。最終の詩は

水鏡の根に融れ
心の野の鳴く
野はらの乳れ咲く野末
宿の音する村
旅路の傍る車
白雲のくぐるる町を過る
路傍の寺に立寄り
奇麗羅の襷物を掛り
枯れ枝の山のくづれを越え
水鏡の長く映る道しをわたり
平の尖のさがる歌を通り
幻影の人は去る
水鏡の旅人は帰らず

寂しさを果てなむ国を
今日も旅めく

彼は豆腐屋の出身で、酒と旅を好み、野牛馬の生息する都井押をこよなく愛した。

たどりつた

振り返り見れば山河を
越えては遠く来たものかな
この歌は、河二重尊二(日原部帝大教授で社会主義者)が当時の官憲に懐疑され、獄中で回想したときの歌である。私は、学生時代昭和二十年代後半、博士の「巨匠伝」(岩波書店)を書くときに愛読した。博士は一般の左翼教条主義者とは一味違い、私はそれに魅せられたのである。今、私の書棚にあるこの「巨匠伝」を見るたびに、我が青春を懐かしむ。

さて、山の詩人の中で、私が最も愛するものは立原道雄である。彼は山の詩人と自らも言っており、昭和三十年代、ヨク怪井沢に遊び、福原雄・中村真一郎と交遊し、僅か二十五歳で夭折した。東大建築

科在学中の三年間、毎年、設計に
関する「賞」をもらっている。

五月の風をセリーに包んで食べたい……と言って死んだ。
夢はいつも帰って行つた
山の麓の寂しい村に
水引車に目が立ち
草ヒバリの歌い止まない
静まり返った昼下がりの林道を
……………

何とリリクな女詩人だろう。
先日、長崎の古本屋で、アンカ
ット本・立原道雄『福岡ノート』
を買った。表・裏の見返しは淡沢
紅子文庫の筆、岩手山の奇峰、南巨
山が描かれている。この山は谷草
尾「名山回廊」にも載っている。
最近の私の知り出し物の一つで、
瀟洒な文庫本である。

ところで道雄「旅人かへらず」
は、百陽三郎の詩集である。彼の
生誕百年を記念して、感通復刻
された。彼は、はしがきで、自分
を分析してみると、理知の世界、
情念の世界、感覺の世界、肉体的
世界がある。次に自分の中に種々

日本でいちばん
愛されている山

松永 恵一

「ふじはこぼれんいものやま」
子供のころ歌った歌がある。い
つか入った銀嶺には、大きな富士
山が輝いて描かれていた。この市
民会館だったか館前に、みごとな
富士山がデザインされていた。新
築況にももつた絵画、長節北条
の「二重山(二十六層)の赤富士だつ
た。方二の仕舞まわしに、演歌歌
手の若柳に富士山があらわってあ
った。五千円札に描かれている。
富士の冬をついた海上自衛隊の碎
氷線がある。IRの列車がある。
水鏡がある。吟醸酒がある。会
社や銀行の名称。富士と名のつく
ものは身の回りにはいっぱいある。
田子の詩が、うち出でみれば
真白とや ふじの高嶺に
雪は降りける 山部赤人
百人一首には感得されて登場する。
時知るぬ 山に富士の嶺

いつとてか 鹿の子まだらに
雪のふもる丘 在来線
風にたむく 富士の嶺らぬ
空に消えて 行方も知らぬ
わが足かな 西行法師
響しぐれ富士を見れば目を白ら
び 松尾芭蕉
不二ひとつづみ旅して若菜か
な 与謝蕪村
富士には百日堂がよく似合う。
と太宰治は記した。ほんとうに大
勢の人が富士を詠んだり、描いた
り、小説に書いたりした。

富士山に初めて登ったのは今か
ら二十二年余り前。夜空に輝いてい
た星が見えなくなり、空が赤みを
帯び始める。刻々と空の色が変わ
り、乳白色の雲が流れ来ると、
赤の割合が増えてゆく。霧海のか
なたに米い山が見える。みすみす
しい朱色である。その朱の輝があ
るみるよくらんで半円になり、ゆ
らゆらと揺らぎながら火の球の太
陽が駆け足で姿を現す。ゆきゆき
に打たれた。思わず手を合わせた。
富士山は、すごい!

朝日岳から白馬岳へ

北アルプス

日野節雄

彼女(さきん)は26歳の若さである。山らしい山も行ってないという。その彼女が、「白馬岳」を聞いて「連れて行って」と言う。もともと彼女、私が教える前はハクバと読んでいた所があるが、それは年北の相違が、スキーの好きな彼女は、八方尾根・梅畑・白馬国際などのスキー場のパンフレットで、白馬を夢見てしまったらしい。

こうなったら仕方がない。連れて行くからトレーニングに、ランニング・片足立ち・山行をしるす手紙を出したら、新ハイキングに入会しました、と可愛い返事が矢継ぎ早にきた。私が山の厳しさを伝えても、楽しさを伝えた方を気に入ってしまったらしい。とうとう山行と結婚したいから山を好きになるとま

で言ってきたのは困った。山は怖いものだ伝えても、行く、連れて行って、の声ばかり。天気さえよければランルン気分だが、6か月経った7月23日夜、新宿門口にきた彼女は、軽そうなりユックだった。早速車身を雇い、バックキングしていたら、マイクコバスが来た。関トラベル(山行の仲間内で)と呼んでいるのメンバーに紹介し、私は彼女とは別の席に坐る。

24日、豪華温泉から朝日小屋への登りは標高差1000m、約7時間の行程だ。彼女との旅食は私の持参したうどん。私はトップを仰せつかって彼女をセカンドに行けて出遅れた。平尾谷道から急な道になって何んとも言わない。案内書にあった危ない所もなく、

花崗三角点付近より雲霧巻、遠く白馬を望む



いつも元気な彼女が揺れている様子なので、元氣印の人に「30分待たず待っていて下さい」と先に行かせたのがいいなかった。私は登りくだり共30分の行程は、ブラスマイナス5分差である、多摩雪崩氏の山行で経験している。でも今回は違った。リーダーの関さんは下の人の荷をボツカしろと言う。私

は白馬地下の大きな雪渓でリュックを下ろし、「Sさんも来り」と言っておった。彼女が真面目について来たのは驚いた。初めての北アルプス。登って来た所を他人の荷物取りにくたるのは男でもいやがるものを、私はその時足が重く、少しこむらがり来ていたが、そんなことを言っではいられない状況と判断した。途中沢があり、道を間違えたが、すぐ気が付いて登って来た道を行くと、後継

朝日岳・白馬岳付近地図



の3人がいた。荷を数人で分けようとするが大丈夫と行って少ししかくれない。やっと先発隊に追い付くと、A子・R.Mさんの2人がいない。私も間違えた道をそのまま下り、行き違ってしまったのだ。

そんなことで1時間以上のロスをしてしまい、私はトップの判断ミスを入に区別した。白馬地で全員まとまり、やっと登りにかかった。元来北アルプスソングが吹き舞い、海く霞んだ富士山から能登半島が大きく見える景目だった。その日、水をリ・リしが飲まなかったが、これが後になって祟った。

朝日岳の頂上には広く、白馬岳の方位雲に隠れて見えないが、立山・剣の雄姿が雲間に露めた。彼女は雪々としていて、連れて来てよかったです。

朝日小屋に入るとこむらがりが一層ひどくなくなった。ボカリスエットとビールを飲んだがすぐに効かないのか、手まで痺れしてきた。

当日は朝日小屋ファミリーが、小田主・下沢三郎氏の「吾輩入生志高周遊」と名布のお祝とかで、もちつき大会があり私たちもお相伴した。食事の時、兵女の悪夢による、下沢氏は4人の女子を有てられ、一女がまた4人の女の子を生んだという。悪夢といっても女の子どもばかりで、おじいさんに百貫子やヤツゲな

どをプレゼントした。標高があり、既に私がおやじさんとの間隔を指名され、ビツケルでドン。握手。拍手。酒とジャガイモの意物があるまわれ、にぎやかにお開きとなった。

夕方、外へ出ると雲が切れ、雲谷・白馬岳が見え、紅葉を覗いている人が、白馬山頂に人がいるのが見えると話をしている。彼女と年真を指し合い、足が痛いというので妹も始めたが私の方が痛く、早々に切り上げて寝る。暑いくらいの夜だった。

翌朝、小屋の人が、台風4号が上陸したと話をしていた。副山を和歌山と聞き違え、朝日岳山頂で積雪か下山が決めることと出発。山頂でラジオを聞くと朝山とか。晴天で風もない。急走と決まる。私のトップで登って来たが、調子がどうも良くないのでRさんに代わってもらった。

ところで、白馬谷道は沢へ下りたり戻りに登ったりのコースで、とても水平などいえる道ではなく、時間的にも同じで山頂コースの方が楽だと聞いていたし、雨の状態も持たないので、前後から山頂コースと決めていた。

山頂からの急な下りも小坂が原まではコースタイム通りで来たが、朝日岳への登りとな

って足が引きつって来た。ゆっくりと歩くと山頂に着く前にKさんにサックを預ける極ひどくなつてしまった。持参のコールドスプレーを使うが、随分的だった引きつりも、股からふくらむまで全体になつて効果はない。「百名山の一番奥の山頂は、標高3600度だが私の目には入らない。昔は1時間も登山を楽しんでいただろう。」

「下りになると、とうとう足は痺になつたというより、ケイレンを起し、激痛で涙が出た。位でも駄目、K.T.さんやOさんが足を引っぱってくれるが治らない。ヤツと言言話遊樂小屋に辿り着いて大休止をしてくれる。ひと一倍汗かきの私は、水分不足と思つて海參のポカリスエット粉末を飯袋に練し、小屋下の水場で作つてもらつた。1日飲んだ。H.T.さんやSさんがパップ剤を足全体に貼つてくれる。A.T.・M.T.さんが私の軽いリュックから、アイゼンや雨具などを持ち出してゆく。今までは人にしたことはあつたが、してもらつたことはない。今、私が助けてくれて、痛みの涙と嬉し涙が一緒になつて出る。帽子を振り袖になつて顔を隠した。」

「よし、頑張るんだぞ」と心にいい間かせて歩き出したが、すぐ激痛が走る。関さん「登山に行つてもらつて、白馬山荘に歩荷

がいると思つてから迎えに寄越してくれ」と泣き出した。関さんやSさん、Kさんが相談している。私に空身になつて逃げよう。

私は彼女に水を持ってもらい、皆より先に2人でトポトポと歩き出した。荷がないせいか、ポカリスが効いたのか、その後筋肉痛は減つていたが、不思議にむらむらえりもケイレンも起さなかつた。

ゆっくりと、グルーブより先に2人で歩く61歳のおじいさんと6歳の女の子の歩く姿は、他人から見て父と娘の登山に見えたと思ふのだが。私は景色も花も見ず、気紛れに話をしながら登る。「三回目はこうして登るのだ。落ちたらこうして立ち上がるのだ。危ない所は誰の人が渡り終わつてから渡り始めるのだ」など彼女に教えているつもりでも、実際はいつくるか知れない足の恐怖に怯えながら只々歩を進めていた。

彼女は私に心を閉じてくれたのか、思い余つていたのか、三回場の登りになつて「新ハイクの男性にプロポーズされて、私も好きと返事をしました」と言う。私は経験から、彼女のことだけを考えて真剣に言った。「簡単にOKするんじゃないよ……」こんな話をしながら登り、足のこたを粉らした。

彼女に感謝した。若いから強いのか、私が

ハッパをかけたことを実行したので強いのか。彼女は奮闘魂という職業からか、本人の資質からか今だに却らないが、よく気をこかつてくれているのが嬉しかった。

段々と高度を上げ、三回頂に着く。標高白馬の山頂は見えないが、花の監視員が「だから1時間で山頂です」と言いながら、煙草を吸っている私に朝露をくれた。ここまで来ると白馬大池から登つて来る人達と合流して、花を見ながらの道となる。

余談だが、私はシラネアオイに30代こそこの女性の妖艶な匂ひたよそおいを感じるのと本音、夕暮空を見た、可憐なまでに乙女のいじらしさのコマクサが大好きだ。

風流の花と思つていたコマクサもここでは他の花々に混じつて点々と映っている。彼女は足元のニールフェイスに散骨をあげる。孫のいる私の子供より若い彼女も、早く子供を持つて楽しい山歩きを、そして幸せな家庭を作つて欲しいと思ふ。

夢に見た白馬の山頂は、ただ登つたという感慨しかない。「これから百名山」と師匠から始めたが、この山は若い頃も登つていない処女峰なのに、剣足を踏見しただけで白馬山荘へ下つた。山荘が見えると彼女が「安心したせいか出ちやつた」と言う。私はすぐ、何と

判つたが「何」のことは読者の想像にまかせよう。

山荘に入りM.T.さんが昭和大学医学部白馬診療所に診察の手約をしてくれた。手の硬直は多摩氏との山行以来と腹目。足の引きつり、ケイレンは今まで経験したことのない強烈なものである。何故起きたのか？ 脳や心臓に關係はないのかなど聞きたくてM.T.さんに促された。手約した時間に行くと、関さんと同院の血圧を



白馬山荘より雄山、剣岳を望む

どの検査に45分もかかった。「点検をしましよ。原因はカリウム・ナトリウムなどの電解質のバランスのくずれでしょう」と言う。酸素吸入という話もあったが、忙しかつてくれなかつた。点検後はむらむらえりも手の硬直もなくなつて休めた。大巾女座や心臓への影響については返事をしてくれなかつた。

翌朝4時20分に出発からこの米光を持ったが翌朝腹痛、明るくなるのを待つて、五蔵・腹は極度痛んで、白馬大池から雷鳥坂コースを雷鳥温泉へ下山した。途中、大きな雪崩岳を見つめて、反省。

一、若者にハッパをかけることはない。
二、夏は水分を十分摂取しよう。

平成5年7月24、26日歩く

ハッピータイム

- 温泉温泉 4・30―花屋三角点 9・30―朝日岳 14・15―30―朝日小屋 15・15 (泊) 5・00―朝日小屋 9・55―6・15―小坂が原 7・15―30―登山道 10・30―11・00―岩倉遊園 小坂 12・00―13・00―三回頂 14・30―白馬山荘 15・15―30―白馬山荘 15・40 (泊) 4・00―白馬山荘 4・20―5・00―小坂山 6・05―15―白馬大池 7・30―8・00―温泉温泉 10・15

〈費用〉

マイクロバス代 (22名)	1人当り12000円
朝日小屋1泊3食付き	72000円
白馬山荘1泊3食付き	7416円
雷鳥温泉入浴料	4000円
保険別他雑費	984円

〈連絡先〉

朝日小屋	0765 (82) 02330
白馬山荘	
〒通電課02661 (75) 33601	
〈地図〉 明文社「1」2白馬山荘	

*白馬山荘は新ハイ会員証を持参すると宿泊代が5000円安くなります。朝食を弁当にするところの出費も減ります。

*診療費は無料ですが、荷物を運ぶの料も取ります。

【後記】このコースタイムは15時間で登山道に来る楽なコースです。入山・下山時の1日平均時間のバスの時刻を参考すればよく、温泉の多い時刻の方が楽です。アイゼンを使いませんでした。平成5年は例年より雪が多いことでした。

六甲山への旅

ロックガーデンから最高峰へ

六甲

押川 トミ子

東お多福山へ



梅雨の合間に六甲山に登って来ました。もう、何十年も連休とは無縁の職場で働いている連れあいに2日間の休みがとれたのです。どのように過ごそうかと話しているうちに、遠慮がちに「六甲に登りたいなあ……」とホッソリつぶやいた連れあいの言葉を、頭から無理、無理、第一、2日間彼の休みでは疲れるばかりで旅費がもったいないと思っただけ流していたのですが、その後、連れあいの容顔はニコニコ笑っていました。「本当に」

つかねができた中央の山にも行くからね」が合言葉の私達であるが、私はともかく連れあいが出ている限り行くそうにはないと思っていた。が……

六甲——行こう、六甲に。2日間でも行こう。もつたないなんて言わない。月曜日にはスクリーングがある日だからなんてことも言わない。決めた。

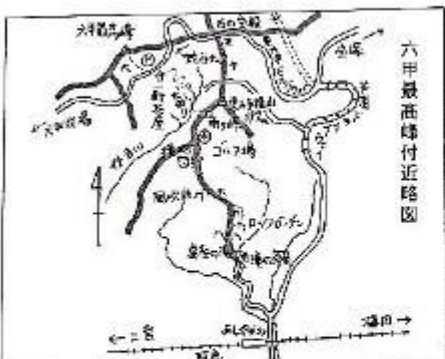
6月12日、そんな夜で、朝一番の飛行機で伊丹に。その足で榎田駅に出て阪急に乗り換え、芦屋川駅に着いたのはもう昼前。11時を過ぎていた。なつかしい駅なのにすつかり嫌子がまわっていて、人に尋ねて住宅街の坂道を歩き出す。両側には、いったいどんな人が住んでいるのだろうかというような、美しい

立派な家並が続く、アスファルト道が途切れる頃、イノシシが現れる。子供たちが歓声をあげるが、誰もいない山道で、一対いで出会うなら恐いだろうし、登山者に餌をねだるイノシシもあわれた。そうこう思っているうちに麓の茶屋に到着。先ずはジュースを買って半分ずつ飲む。

ここから白い花崗岩のロックガーデンで、見えがある。昔きつと思つた所、今驚つても登れた。

もやっばりさつ。よく眺み込まれた所をフー、フー言いながら、後をより返り、ふり返りながら登る。高層の海が見えて、海が見えて、岩場を登るクライマーが活き、みんな色鮮やかなはずの色気である。

歩きはじめ、一時間弱分まで風吹岩に出る。展望が開け、その名の通り、風通しの良い所だ。ここから、なだらかな道を間々峠まで。ツツジは終わったけど、咲き残りがチラホラあって、山あじさいの花は匂いが強くて、花



六甲最高峰付近略図

の姿はシモツク草に似ている。横道への道を分け、峠の手前で水溜りのある所に出た。山中で蛇口から水を飲む。本家本元の、六甲のおいしい水。なり。水筒にも入れ、顔も洗って雨アザに着いたのが15時30分。あちこちで人々が憩っている。私達もお昼にしようかと、木陰に腰をおろす。広場から帰ってきたおにぎり、即席みそ汁に白ごまの焼いたの、オレレンジも4個持ってきたのがまだ2個ある。

子世連れやブエック、中高年のグループ、大娘連れなど、行く人、戻る人多し。ここは六甲銀座の朝、目になるのだろうか。2杯目の紅茶をゆつくり味わって、さて、レストラ六甲本店の店じまい。

東お多福山は、厚皮をひと登りで登った。こんな雨だったか。まるで覚えが無いけど、いいなあ。広々として、明るくてのどかだ。「今日の陽光、東おたふく山に集むた」と、雷少納口もおどろく。

七曲りには、さつきの鍾乳洞を左に入るべきだったが、真っ直ぐの山道に入ってしまった。まあいい、こちらの道は今までと違って行き交う人もない。さうやく山らしい山に来たという感じがして、落ち着いた気分が歩けた。左に坂道があり入ってみると、蛇谷北山とある。良かったね、こちらのコースで、岩屋銀座

にも登れた。

やがて山上の建物が目に入り、車の音が聞こえて、石の宝蔵者が15時5分、車道に出て、いよいよ六甲山へ。最高峰は、茶店から数分、坂道を登った所であった。一お父さん着いたよ、六甲に。私達の六甲に、15時30分。

山頂からバスで降りるつもりでバス停を探すが見当たらない。車道を行けども行けども、それらしきものはない。もう一度車の宝蔵まで戻り、人に聞いてみた。私達は六甲を歩いていて、こちらの方はバスなんて通っていないとのこと。なんてドジなんだろう。時間をロスしてしまつて、少しあわてる。19時には橋川で音の山仲間が、私達のために集まつてくれるというのに……。間に合わなかったら大変。もう一度宮屋川駅まで下ろうかと思案していたら、「私達の所でお送りします」と、ありがたい申し出。「本当に、本当にすみません。助かります」「私達も帰る所です。どうぞおまかせ下さい」と、なんていい言葉だ。さう。まかせて下さいなんて……。この言葉忘れな。

阪急西宮北口駅まで送ってもらった。もう一問答うはずもないのに、ふり返ればまだ私達をせよ、私達を見ていて下さる。もう一度手を振つてお別れした。十三駅に途中下車し、鉄

新ハイキング選書

●日本山岳会選定●

第15巻 好評重版発売中

市川静子/岡田敏夫/岡部紀正
川越はじめ/廣澤和嘉/共著

日本二百名山ガイド 《東日本編》

第16巻 最新刊

日本二百名山ガイド 《西日本編》

A5判 320頁
全定 1600円

発行所 新ハイキング社
東京都北区池野川7-6-13
(03)-3915-8110
掛紙東京3-146915
●送料は別途当社負担



へ下る途中にカミナリ清水が湧き出ているので助かる。
南場山は標高2145m、周囲4.4に及び山頂は草原と灌草に彩られている。山頂には遊仙閣と南場山頂ヒュッテがあり、今夜はそのどちらかに泊まる。
山頂北部の小丘には神社が多くあり、山頂に祀られている神社は伊弉志神社で、その祠の岩に縁後出身の教習者であり登山家であった大平屋のレリオンがある。南頭もその門下生の一人で、昭和十年(1935)当時、これも日本山岳会会長であった南頭仁兵衛が建立したものである。
話は江戸期のことになるが、鈴木牧之の「北越道中」上・中・下が刊行されたのは、天保七年(1836)であった。その二編四巻に南場山の記行がある。南場山は遊仙閣第一の

高山なり、魚沼郡にあり登り二里といふ。曠野の間に苗田あり事甚奇なり。此記行文を聞き出しては、教之は文化八年(1811)7月5日から同行4人、案内者を雇って登山し、山頂の草小屋に1泊、7日に下山している。
山頂からの展望については、教之の記述を引用する。さて、眺望は絶後にはさる出、周囲の樹をほはじめ、皆茂の連山みな眼下にた。千隴川は白き糸をひき、佐夜は青き雲石をお籠をのこせり。こに眼を以て扶桑第一の富士を視いだせり、と、まったくその様な風景を見ることが出来る。
山頂から西へ下れば秋山郷である。南へ向かって大池を歩くと、歩いてゆく道の左右には渾然、池が広ががり、地々に灌木の叢生がある。

山頂台地から急斜面を下り麓根上をたどると、深穴岩場を通過して樹林帯の中を下った平地はフクベ平、ここから右に坂を見ながら南津川に下る。南津川の白い河原へ出てから対岸を渡る。無雪期のみ登降する赤湯に出る。宿は近代の宿であるが、温泉は南津川河原の露天風呂に入る。奥湯は塩化土類含有効果、40〜50度と高温。日湯河に効果ありといわれている。せせらぎを聞きながらの入浴は山中



南場山頂の朝

ならでよいものである。
赤湯から南津川を対岸に渡り、磯ノ果峠へ急坂を登り元宿までの行程はつらい。赤湯で一泊しない場合は、早朝南場山頂を出発して一りたすれればよい。赤湯から南津川を渡れば遊仙閣を過ぎた林道までタクシイが来てくれる。
ゆつくりと南場山頂の温泉風景を楽しむにはもう一日の余裕をもって赤湯の宿に泊まることをおすすめする。
(平成2年9月21〜23日歩く)

〈参考タイム〉

- (9月21日)上野駅7:43(上野新幹線) Ⅱ 磯後渡沢駅(タクシイ) 南場山登山口10:10
- 和田小屋10:55 下ノ芝12:00 30
- 中ノ芝13:00 上ノ芝13:30 小松原分岐13:40 津葉ヶ原13:53 カミナリ清水14:20 遊仙閣15:15(泊)
- (9月22日) 遊仙閣8:10 フクベ平11:15 水場11:15 赤湯8:12 30(泊)
- (9月23日) 赤湯8:15 津葉ヶ原10:50 林道クート11:15(タクシイ) 磯後渡沢駅(上野新幹線) 上野駅

地形図 2万5千土嚢・南場山・佐武蔵山・三國峠

野外活動に伴う危険と対策

坂井 久光

夏ともなると野山は緑一色となり、笹や萩、つるや灌木が登山道にもはびこり、登路が判りにくい所や、踏み跡や切り筋も消えて全くの藪となつて居る所もある。
登る時に赤や黄のテープを要所所所に付けて下山コースを確保する人が多いが、この方法だと、登りに下方より樹木や岩等が付けたテープが下山の際に下方より見ると木陰となり、役に立たなくて危険移動を間違えたり、駐車し、林道に下山出来なかつたり、又全く違う谷や道に下山して困つたという経験は就たではないと思ふ。
私が見た基幹道の山道探りの人が利用しているのは、ニールビもである。出発点の木に先端をくくりつけて、腰につけてはしながら登降している。藪の中でも下山の際それを辿れば誤る元の地点に下山できる。車版のものは一巻500mあり、たいがい藪道なら一巻か二巻あれば間に合う。関東の新ハイリター高柳氏と秋田の大仏高登山で体験した。

北九州の名峰

天山

多摩雪雄

九州

佐賀県の名峰だが、鹿児島本線から外れている為、中土の吾人には馴染みが薄い。長崎、佐世保方面に行く時には、是非訪山したい。明るく闊達な天山からは、360度の眺望が堪能できる。

半蔵や著名な小次郎は、九州の小京都ともいわれている。島橋から長峰本線まで、右側に吉野ヶ里の聖域が見える中京、三田川を通過して、佐賀で唐津線に乗り換える。

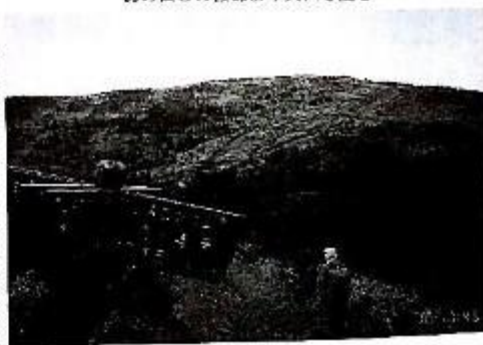
小城駅前からタクシーで尾蔵寺に詣でる。小次郎王二代直能が建立した寺で、豊後指定重要文化財の唐風様式だけが保存されている。鍋島家の菩提寺で、初代元茂から十代までの立派な墓域だが、御霊屋や開山堂は倒壊寸前の状態で、草むした五百羅漢等、無住なるが

故に、寂れた荒れ様である。次に霧気の天山神社に参拝して、川原川原を離れる。

天山は山頂が10000坪を超えているのに、コンクリートの車道が、8000坪の上宮駐車場まで、我々を運んでくれる。

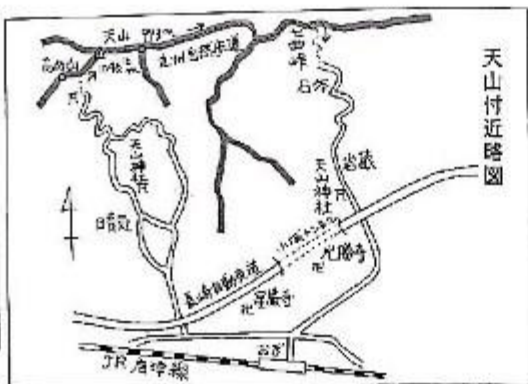
上宮の池の周りには、東屋が新設され、付近は公園風に整備されて、緩急段の登路は、ゆるやかに、あめ山との鞍部に導いてくれる。其処の草原も公共良いが、もう、ひと登りして頂上に立つと、1046・1050は天山1等三角高標石が、奇麗な貌を見せている。その後方に、建立しない方が良かった巨大な遺蹟の山碑がある。南朝の阿蘇八郎兼直が、建元元年(1336)菊地武敏と共に、多々良侯

あめ山との鞍部より天山を望む



で足利義氏軍に敗れて、自刃し、阿蘇の遺跡の見えるこの山頂に葬られた。と、いう處石もある。
云り難ての頂上から東へ、九州自然歩道の太い草履を辿ると、早くも吹き始めたマツムシソウを始め、晩夏・初秋の草花が数多く見られ、背高いカヤ(フススキ)と、ミヤコザサの中のしっかりとした遺構は、一時登脚を下つて樹林帯に入る。

天山付近地図



天山1等三角点



大徳間1等三角点と2等水準点

下り一方で七曲時に出ると、立派な標石があり、ほんの僅か広い舗装路に出る。石体から呼んだタクシーで駅へ向かう途中、慶應十七年跡のある雄大な肥前島原の礎つ岩蔵天山神社(無住)と、日蓮宗の縮西經本山光勝寺に詣でる。
天山の母屋、時間があったら、是非訪れたい三角点がある。
筑後川の堆積洲であろうと思われる、川副町大徳間の南方台地は暖帯帯で、その中に木

郡最低位の1等三角点補点・495.4mがあり、島に2等水準点もある。点名は大徳間。
最近、佐賀からのバスが日に三往復あり、便利になった。終着は、大徳間小学校校庭前の農業産物組合で、其処に待合を預けて往復する。片道30分、次のバスまでは待てないのだ。タクシーで柳川に行き、西鉄で久留米に出た。(1等三角点970.0mの「夏露石」は、GSP朝潮へ人工衛星による測量)のため、成果に取り付けてないが、多分2m以下で推測される。その為、大徳間は最低位では無くなったが、「夏露石」は、おもしろいとは行かない日本最果での標識である。) 完成5年8月18日(土)

ハコースタイル
唐津線小城駅(タクシー45分、尾蔵寺・晴気天山神社参拝15分)上宮駐車場(35分)天山(1時間0分)七曲峠(45分)石体(タクシー35分)岩蔵天山神社・光勝寺参拝各10分
小城駅
(同じ合わせて)
小城町役場 0952(71)2111
(地形図)2万5千1:小城・古海・佐賀南部・七ツ家

アウトドア・ライフ入門 ⑦

野外塾

●救急法 その1

関西アウトドアスクール
校長 二名良日

5月の「野外塾」フィールドで「河川」に行き、草木の採集をしていたところ、動くはずのない、一歩以上もある大岩が突然に倒れ、反動的に落ちたものの、左手を下の岩との間に挟まれてしまい、指先がつかれ、骨が砕け、爪がはがれ、大変でした。

沢登り・登山山のシーズンでもありますが、今回は右のような緊急事態に対するチェックポイントを实际的に改めて整理してみたいと思います。万一の場合の「他山の石」として下さい。

まず斜面を降りたときは、指石の浮き具合に注意が必要ですが、一つだけ特別に……というよりは、その地形等の構造により、その辺りの岩石が同じように動きやすく押しているということが多いので、不安定な岩に出会った時、全般的に注意深い行動が事故の未然防止につながります。

以下、もしも今回の私のような事態になつた場合の、応急処置や緊急事態の対応について、事実をそって述べてみますので、東の片隅にいれておいて下さい。

第一に緊急救助的「急降反動」防衛行動について考えてみますと、虫や小枝が目に入ったたり、マムシや蜂に飛びついたたり……するような場合、健康で正常なコンディション

であれば、カラダが自然・無意識的に瞬間反応をしてくれるのですが、要不足に陥り、力が気味だつたりすると、そのスピードが鈍ります。車の事故などについても同様のことがいえそうで、隙をいっばい吸って、心身を爽快な状態に保つておくことが、事故防止の第一歩、という気がします。

今回の場合、小中学生時代にソフトボールで左手のクサリ指を骨折し、防衛反動で第一関節に肉がついて、指先が少し曲がってニブクなっていた。のが原因……であるような気がします。

次に、フカをしない注意と同時にケガをした場合の対処法についても、被爆体験的にイメージ・トレーニングしておくことが大事です。(火事を出さない注意を厳重に徹底しておきながら、火事になった場合のことを訓練しておかず、家を丸焼けにしてしまった……先聖一家の悲劇が思い出されます)

応急処置は、一刻を争って迅速にやらねばなりません。大原則として、傷(ケガ)の度合いを見極め、それに見合った処置の手順を、瞬時に判断しておくことが重要です。「ヤバイ、かなりひどいな」と思った途端に、ポケットの大型のバンダナを引っ張り出し、「たまたま3階市」「3階市の3階市」

して、指の根元側から巻き上げ、巻き戻して得ていましたが、後で思うに、巻く前にマキロンやアルコールで消毒すべきだったので……、傷のスコキと痛さで、同行者を止まらしてしまいました。「止血帯」を、手首に巻いていました。骨にはいれず、かつとキャンカイダです。止血帯の位置は、骨が一本の上腕下部のほうにベターだったかもしれませ

「指先がダメかもしれないな……」と比較的冷静に思いつながら、片手運転で車を道路脇路まで出す途中に、おにく山側で岩崩れ箇所があり、右下が深い谷になっていたのと、片手という状態で、安全をとりすぎ、過剰寸前で、車体の左側部を突き出た状態でストップしてしまいました。

観光地に行くのが一番よかつた判断し、訪ねて来たところ「観光所」に休日に休み……とのことで、町の救急病院まで自力で行くか、それな難しければ「救急車」を呼ぶ……とのことでした。休日でも外来の登山客が多いので、と悪いつつ、本来業務は、地元住民の自衛隊で、休日を含めていない、随分なく私生活もなくなるのだらう……などと、寝たナットクしながらも、フア

の車を見ていたもので、複雑な心境でした。山の曲がりくねった細い道を片手運転で約1時間かけて、町営の救急病院にたどり着きました。保健所の本部がなく、普通・3階市の関係で手取り、当分の先生が「整形外科」に送られたので、「スママセン……」といわれつつ、治療だけにしてもらえず、大阪に帰って「救急病院へ……」といわれました。

片手運転のしやすいノックラッチ車で助かりました。保健証は、少なくともコピーを、旧当分の山たり外れを避けるには、救急車がベターです。道中は「ペンション」で洗われ、酒を飲みます。友人は、酔いの効きが弱く、そうです。

大阪の救急病院も、女性の整形外科医で、明日「整形外科」医が来てから来院するように……との連絡がきました。

翌日の午後1時頃やつと寝てもうえ、4時頃までかかって、十数科通って、爪も縫いつけてもらい、何とか帰つてきました。状況は、連絡先、休日と、18〜19時の緊急の交代時間帯にはナガをしないように……と教えてもらいました。

救急法には、数多くの分野と方法がありますが、まずは旅行による指石のオンマツな一例を報告させていただきます。

アウトドア・野外塾の案内

7月 「アウトドア・パーティー」
5月の山歩期間、ケガ防止会となり、したので、大山麓の清流での野遊会」に再び挑戦します。

期日 7月10日(日) 9時～12時(雨天決行)
集合 奈良県天川村川川バス停 10時45分
場所 河川キャンプ場
会費 3,000円(交通費飲み物各別別)
担当 ①二名良日 ②伊田 繁成

8月 「無人島サバイバル・キャンプ」
(無) 無人島で野性的に過す)

期日 ①8月11日(火)～15日(土) ④泊5日
②8月8日(日)～15日(土) ⑦泊8日
場所 瀬戸内海豊後水道・高島(大分県)
会費 ①中学生以上 4,000円
小学生 3,000円
②中学生以上 6,000円
小学生 5,000円
担当 ①二名良日 ②伊田 繁成

★集合・行程など詳細は申し込み時

(申し込み・問い合わせ) 一週間前まで
〒550 大阪市西成区本町2-9の11 同
館ビル1131 関西アウトドアスクール
まで 電話06(443)8346

○詳細要項をお送りします。

旧来の登山道を歩き大台ヶ原探勝

大台ヶ原山・筏場道と河合道

高台

酒井賢治

大台ヶ原山は、昭和36年に開通したドライ
ブウェイにより、バスやマイカーで誰もが容
易に登れる山となったが、それまでは奈良県
間の筏場道や河合道、三重県側の尾鷲道や大
杉谷道などにより1、2日ばかりで登るをけ
ればならない深い山域だった。当時の大台ヶ
原は今のような観光登山による煩雑などな
く、本当の山好きのみが登る不便で静かな挑
険地だったにちがいない。私も今までに5回
ばかり大台ヶ原山に登っているが、大杉谷の
登り下りは別として、いずれもバス利用の探
勝登山で、昔の深山奥谷の大台ヶ原は知らな
い。

本来、山は自分の足で登って下るもの……、
静かな旧探勝とした大台を求めて、旧来の筏
場道を登り一泊して河合道を下山した。
8月25日午前6時、次男連太郎のマイカーで
息を出発。古い慣れた国道16号線を南
へと歩む。柞木をすぎ大台ヶ原を渡り、貯水
池(石)を走り入之瀧(源泉)と行く。ここから右
へ坂道を下り、左に塩ヶ原や釣魚池を見
て立派な杉林を渡り、貯水池左岸の林道を走る。
約好きの息子がいい所を見つけたと喜んでい
た。貯水池脇が狭くなると、股分岐で、左へ
台高中部の山々への取付点に通じる旧探勝林道
が分かれる。筏場道へは、真っ直ぐ本沢川左
岸に沿った箱根の林道を走る。本沢川左岸に
降り付くように建てられた木造遊歩(こ)が
筏場らしい。まどろし、8時45分三台又谷林
道のゲートに着いた。ここで次男の車を自走

展望所より大台ヶ原山

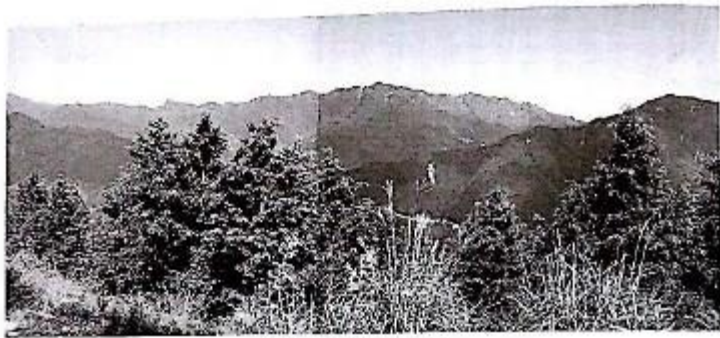


大台ヶ原への指路標と「領埃のため通行禁
止」の看板があったが、かまわず林道より本
沢川への草深い登山道に下る。すぐ右より白
合谷又谷が合流しコンクリートの橋を渡り、本
沢川左岸につりられた坂をゆく。白合又谷の
合流点から本沢川は、大谷や深い淵も加わり
素晴らしい渓谷となる。登山道は草深い
が、ところどころ石積みもある明確な道で、美しい



渓谷を見ながら緩やかに登る。(登山口の次の
巨峰目、毎日「V」真珠の小箱)で、青野川
の源流を求めて、と願う。この辺りの渓谷が
架かされていた。15分程行くところ右の岩壁から
10分程の間に登山道が落下していた。以前、
冷泉が湧いていたという五色湯に知らぬ間に
通過。さらに進むと本沢川は一層の深さを
呈し足元を流れる。途中で一箇所、道が岩壁
に阻まれる懸崖があるが、ここは岩を登り少
し渡渉し、酒造の
所で岩をはい上がり、再び登山道に
出て通過した。5
分25分、右から金
之公谷が合流、吊
り橋を渡る。釜之
公谷は三津河原山
や大台ヶ原の北面に
突き上げる本沢川
では最大級の支谷
であり、出合いの
風景もさすがに美
麗らしく、大きな
岩が階段状に連な
り、すさまじい水
流が滝状に落ちし

ていた。ここから道は本沢川に沿った杉林の
中の山道となり、徐々に高度を上げる。左下
に展開みえる本沢川とかなり高さ差がついた
ころ、道は右へ急角度で折れ、山腹を絡む急
坂となり、これを登りきって本沢川と釜之公
谷を分ける崖根の崖を越し、ここは三
十三河といわれ四河も通る、良い休憩場だ。
谷の奥音がすけに聞こえるのみ。
果つ越しから登山道は、釜之公谷側の尾根
を踏む山肌はマツヤツガの巨樹が著る細やか
な道となり、釜之公谷の深い切れ込みの向こ
うに大杉谷から急勾配で下る大きな滝壁を見
る。この辺りから銀明水にかけては、余り変
化のない樹間の結晶道で、物思うに良い道だ。
あれやこれやと思考した。そろそろ湯きを感じ
るころ、銀明水の水場に著る冷たい水で咽
を潤す。小さな酒谷にかけられた立派な木橋
みの橋を渡る度に、近くなった三津河原山や
大台ヶ原を仰ぎ見たり、北に三津河原の雄姿を見
たりして11時20分、大台ヶ原に着いた。大台ヶ
原は180平方メートルの平坦地で、東へ下ると白
谷橋から大台ヶ原道を経て釜之公谷へ、北から
池木原山からの台高縦走路が下りつてきてい
る。樹間の広場で足袋を脱ぐ。11時40分、大
台ヶ原を出発し、南へ大台ヶ原への樹間の道を
ゆく。辺りは原を群やコケの付いた石を、



イデク平より大峰の山々

に着いた。ここから西方向に張り出した崖ノ
峰尾根の北面山腹につけられた道を下る。ブ
ナやミズナラなどの巨樹が繁る山道は、小さ
な支尾根が多く張り出しており、何回も迷回
しながら緩やかに高度を下げる。クラガリ股
谷への小さな淵谷を幾度も過り、山ヌケを
南進し、崖ノ峰の北面山腹を降り、左へ曲が
り込むと、比較的新しい大きな山ヌケがあり、
西側に大峰山脈の大岩壁が聳る。右から左
へ台形状の山上へ登り、東壁をほぼ垂直に落ち
込み、崖ノ峰に長大な尾根を張り出す大岩壁が
左へ傾いた行石遺跡、巨大な山容を誇る峰
山と八雲ヶ岳、雄大なカーブを極める他生ヶ
岳と乳姥ヶ岳、鋭いピラミッド状の積石ヶ岳と
大日ヶ岳、さらに南へ続く大峰南側の山々が横
一列にすべりと並ぶ。そして右向き小滝川右
俣谷を隔てて針葉山やライプツェイ、眼下
にはこれから下る河谷道の尾根や小岩、温泉
など多量な岩や木がに阻壁できた。
大岩を去が染し再び尾根沿いの道を下
る。樹木は自然林から常緑の雑林や雑木に変わ
り、ぐんぐん高度を下り11時30分林道終点に
飛び出た。大峰山脈を前に見ながら林道を少
し下り、左の切り道しつけられた木和道へ
の道に入る。尾根山腹を沿うこの道に、あま
り踏まれていないようである深く暗いところで不

明瞭になっており、どうやら小滝川東への道
が主ルートになったようだ。根元より1時間
ばかり下ると、右下に木和川の集落が見え、
更に半日庵の急勾配を駆け下り、どこで間違
えたのか、とある民家の庭先に下り着いた。
すぐ小滝川にかかる橋を渡り、11時45分木和
川のバス停に着く。ここから小滝川に沿った
県道を歩き、12時30分河合のバス停に着いた。
バス待ち時間を利用して、北山村村道温泉茶
入館、汗を流し13時45分茶館の温泉き小屋パ
スに拾われる。
山頂一帯の距離は別として、登り下り誰一
人一人に合わない静かな山旅であった。但し、
滝とは何度も挨拶を交わした。
平成5年8月25日26日歩

△コースタイム▽

- 夜帳(2時間40分) 大谷庄(1時間40分) 大
- 台車道(40分) 日出ヶ岳(東大谷庄) 大
- 台車道(1時間20分) 陣中(40分) 尾根道
- 台車道(1時間15分) 大和山(1
- 時間) 河合バス停

△撮影◎

昭文社「57大台ヶ原・大杉谷・高見山」

大谷庄らしい雰囲気となる。幅広い尾根を降り、
コブシ峠を越え、三並河落山から北へ誤生
する尾根の山腹をコンターに滑り下りて緩やかに
登る。やがて右に金明水の水塔があり、若か
ら湧り落ちる冷水は向とも美味だった。12時
半頃、立派な鉄骨造の安心橋を通過し、やがて
左に扇形に広がる河谷の向こうに、樹林にお
おわれた日出ヶ岳の美しい山容を見る。いつ
の間にか道標のシマウマは、ミヤコ笹に変わっ
ていた。

三並河落山やナゴヤ谷から下る道を何回
となく迂回し、ようやくトウヒ・シラカネなど
の樹林にミヤコ笹が敷き詰められた川上付近に
着き、ドライブツェイに出て、真つ直な道を
仰ぎ見た。ここにも尾根への指路標と通行禁
止の看板が出ていたが、いったい何処が急峻
なのか理解に苦しんだ。15分ほどドライブツェ
イを歩き、13時30分大台車道に着く。平日
というのに駐車場は観光バスやマイカーが何
台も駐車している。この駐車場は左の趣味に合
わぬが、これは無い物ねだりというもの。休
む暇もなく登頂峰の日出ヶ岳を目指し、14時
過ぎ山頂に着く。山頂の大展望は説明の必要
はあるまい。ただ今回は、いま自分が歩いて
きた後背道の谷や尾根を、双眼鏡と地図で確
認した。14時30分山頂出発、正木ヶ原、牛石

ヶ原、大谷庄、シオカラ谷を降参し、17時過
ぎ、今夜の宿・大谷山の家に靴を脱ぐ。別館
3階相部屋の泊まり客は一人、窓から見る
落日は、奥の川深谷から次々と湧き上がるガ
スを黄金色に染め、時折薄くなったガスの向
こうに、山口公園や大峰山脈が黒いシルエツ
トを浮かべながら空を写す。

翌日、4時20分山の霧を突破、日の出を見
に目覚め日出ヶ岳に登る。5時過ぎまで風雲は
あつたが、尾根側の雲霧が晴れ間に止雨に吹
きあがり、5時25分日の出の時刻、山頂は雲
金にガスに包まれてしまった。それにしても
人の多いこと……。山頂から降り、6時
ちょうど、駐車場西から指路標に従い西大
台原降参を下る。すぐ大台敷を右に見送り、
と、露岩の多いブナ林の中の道を15分も下る
と、明るく開けた草地に出る。ナゴヤ谷の源
流を越し右に大谷ヶ原開拓の祖・松浦武四郎
の碑跡をみる。流れに沿って少し歩くと、道
は木の根の多い歩きにくい山腹を通り、小さ
な谷を数回横切る。右上にドライブツェイが
近づき、一時深山の荒削りが覗けるが、再び
静寂をとりもどし深い樹間の道となり、やが
て中の谷の清流を渡る。七ツ池は谷がつかぬ
間に通過、ロープの張られたカツラ谷を飛び
石で越え、少し歩いて7時20分開路時に着い

た。樹間の広い平坦地で、案内板に大谷開拓
の歴史が書かれていた。
ここからすぐ高野谷を飛び石で越え、さき
にマサビ谷を越すと、右へ傾く峰への道が分
かれる。左へ進むブナやトウヒの巨樹が立つ
厚生林の中を通過し、一刻して開拓分岐に着
いた。左へ行けば高野谷やカツラ谷の下流を
越して元の大台敷をに出る。真つ直ぐ丸木の
階段がつけられた道を登り始め、8時ちよう
ど展望所に着いた。東側の樹木が大きく切り
開かれ、東の川の深い切れ込みを覗けた正面
展望台から大峰山脈上部の樹林と不
動遊し岩の岩壁が頭を過ぎ大きな山容を形
成、大谷庄・セイコ草・エゾシラカネなどの岩壁
が、ほぼ垂直に東の川に露呈していた。滝見
三郎の後ろには、シオカラ谷が深い大きな樹
れ目を作り、その向こうに千石尾をほじり取
り岩壁が屏風状にそそり立っている。そして
この峻々とした風景と対照的に、日出ヶ岳か
ら正木ヶ原にかけての優美な樹林が後景を盛
えていた。全く別のすくく雄大な眺めで、雄麗
な大台ヶ原の舞台裏を見た感じがした。ここ
で遅い朝食をとる。
8時30分急登所出発、少し登って油ヶ原を
越し、樹間に大新島の岩壁を垣間見ながら緩
やかな坂道を下り、樹林の中の電口尾根分岐

はるかなる雲海に立つ

トムラウシ

吉田 信 秀

大雪

最初に北海道、大雪山系の縦走計画を立てたのは、5年も前のことだ。門口さん、早川さん、私の3人での計画であった。条件が整わず延び延びになっていたのが、今年になってようやく実現することになった。

大阪空港から朝一番の便で新千歳空港に向かおうと飛び立った。降着したのはかなりの新千歳空港は混雑し、地下にはJRの駅があった。このお陰で乗り換えが便利になった。JRで旭川に向かう。

札幌で途中下車し、山の店でガスボンベと際上げのカウベルを買う。ガスボンベは保冷袋、危険物に該当するもので航空機内に持ち込めない。保冷袋を利用する場合、国内であっても現地調達しなければならぬ。札幌駅や

旭川駅には大きな店の店が軒かあるもので利用するによい。

札幌で行動食のパンを買い、旭川から旭川電気軌道のバスで天入峠に向かう。旭川から旭川温泉行きのバス代は無料である。旭川も旭川温泉の宿泊補助があれば無料になる。小売がバスの窓を叩いていたが、天入峠に着く頃には止んでいた。

天入峠を渡るとすぐ左手に第二駐車場があり、立派な遊歩道を設ける第一駐車場である。ここはバスのターニングエリアでもある。

夕暮前に柱状節理の標壁や羽衣ノ滝、戦鳥ノ滝を眺めたかったが、明日の長丁場を考え、早めにホテルで休むことにする。早朝、前後編でのおいた朝食用おにぎりを

持って出発する。天入峠のバス停でも第一駐車場から、奥の川の上流に向かつて坂道を登って行くと、5分ほどで登山口である。ちょうど、天入峠ランドホテルの裏手になる。



旭川電気軌道 旭川温泉行きのバス

きつい標に刻まれた三千三百メートルの急登が始まる。標高約3000メートルを二気に稼ぐ。樹林帯の中を生垣の門口さんと最後の私が無を言成するカウベルを鳴らしながら歩くのも始めだけであった。曇天下、無風無雨のようだが、汗がぼたぼたし、顔の感度を忘れさせるほどの大気の乾燥に強い立ってられ、呼吸を整える間もなく遠見台に到着する。

羽衣の天女が空に舞う様子を

愛でる間もなく、戦鳥の攻撃。夜秋、滝見台から眺めた羽衣ノ滝をゆっくりと眺めながら、朝食のおにぎりの予定だったが、戦鳥の集中攻撃に遭う。千歳温泉のため、ほとんど夏の間には来ない登山者を狙って、戦鳥が襲いかかってくる。シャツやボン

上からも刺す。防虫スプレーを身体に吹きつけてもまったく効果がない。とくに露出部分の多い服装は不利であり、早川さんはニッカーズボンの靴の上からも刺された。戦鳥の大

量発生時の背景には、澄んだ空気、きれいな水、豊かな土壌などのすばらしい自然環境がある。少々の戦鳥の攻撃など甘んじて受けとめるべきであるし、このような環境を後世に残してゆくことこそが私たちの使命である。とは思うものの、やはり落ち着かないので、おにぎり一個を頬張るやいなや、足元に出発する。おにぎりを小化整頓の頭が痛みに現く、雨風道を警戒して慎重ながら歩く。樹林に太いダケカンバが抱じった標高1300メートルの湿地に入る。予定よりかなり早く第一公園に着く。小坂の色あざやかな花畑だ。



前トム山よりトムラウシ山

時をわすれて眠れる岩 登山

第一公園は只道十段りハクサンイチゲ、エゾコザクラの群生である。その広大さは本州のアルプスのお花畑の比ではない。背後には融けたSOSの融雪水を隔てて、重層な旭岳が鎮座している。だが、草原には木道がななく、踏み荒らされるのを防ぐ必要を感じた。小化整頓のピークを巻き、北壁の頂上に立ったときには、ガスのためかなり視界が悪くなっていた。初めてのピークなのにゆっくりにする間もなく、ヒサゴ沼へ向かう。

化整頓から緩やかに下って行くと、北壁沼の分岐で、ヒサゴ沼へは標識に従って左に入る。緩やかな斜面を下って大きなヒサゴ沼の縁に立つ。野菊がまだまだ多い。

おにぎりを食べたヒサゴ沼の湖畔小屋に

は、先客が小屋の半分を占めていた。この小屋はトムラウシ山へ登る最短コースの途中にあるので混み合っている。私たちに雨ハザックを置いてスペースを確保し、昼食にする。この時季、ヒサゴ沼の周りはエゾカンゾウの花で埋め尽くされているはずなのだが、獲物が多いせいだ。まだ咲いていない。エゾカンゾウは別名センダイカといひ、本州ではニッコウキスゲという。夕食を作り始める頃、九州から来たという年配の団体で二群もいっばいになる。ラジオの天気予報によると、本州出陣に梅雨前線が停滞している。北海道は梅雨の影響を受けにくいとはいふものの、日本海側に低気圧があり天気は前線を模倣である。夕食後、困ったことがあった。ガスコンロの燃料が残り少なくなっていたので、雪深から汲んだ水を飲水にするためには、雪深は使いすぎである。北壁沼の山では、一度煮沸させなければならぬ。エキノコックスの幼虫が抱じっている場合があり、幼虫は熱に弱く煮沸すれば死んでしまうからである。幸うして初期の雑炊を作るだけの燃料は残っているようだ。3人とも夕刻の本格的な縦走である。体力に不安がある。荷物の軽量化を計って、食料・燃料をきりぎりまで切り

詰めた。しかも今回のコースはまったくエスケープルートがない。

翌朝、目を覚めて窓の外を見ると雨が降っている。しかし大降りではなく、風もない。後継上さな風雨でなければ、何とか歩けるだろう、と覚悟して、トムラウシ温泉に向けて出発する。

ガスで視界が非常に悪く、沼の縁からヒナゴのゴルまでの岩壁の状態がよくわからないので、昨日下った沼澤を化境の分岐点まで登り返すことにする。3人は雪の斜面をキックステップで登って行く。同じルートを他の登山者も大群登って行く。ところが、視界が悪く、昨日通ったルートがよくわからない。昨日の下りよりかなり急な斜面を登っている。滑って転ぶと止まらないほどの傾斜である。アイゼンかピッケルが欲しい。現に、アイゼンを行けた登山者もいる。おかしな道に迷ったと思ひ引き返す。途中で登って来た人とすれ違える。ここで化境まで沼澤を直登するルートに取り付いていたことを地図で確認した。ガスの雪深ルートは迷いやすい。昨日のルートがまったく分からない。別の登山者から「沼の縁からゴルへの沼澤の登りはこのルートよりもっと緩やかでしつかりした踏み跡があり、まったく迷う心配はありませ

ん」と教えられる。結局、1時間のロスタイムの上、沼の縁まで引き返し、ヒサゴのゴルへ登る。雪深の中を歩いて行くが、とくに難しい箇所もなく、15分足らずでゴルに着いた。ヒサゴのゴルからは日本国境へ。日本国境では、テングルマが池の縁の岩を美しく覆っていた。しばらくたずんでいたら雨が降ってきた。冷たい雨が頬を打ち、身体が凍りそうなので、あまり歩くつもりでできない。

ロックガーデン、北沼とお花畑の中を快脚に歩いてトムラウシ山の頂上へ立った。

植頭雨れや並び立ちたる牛の角。 読歌
トムラウシ山から前トム平まで下ると晴れてきた。お花畑の中で昼食にする。初めて双耳峰のトムラウシ山が眺められる。

前トム平からコマドリ沢の源頭への下りで登山道が途切れていた。先は急斜面の背後になっていく。赤テープが目立たないが踏み跡ははっきりしていたので、私は出立を下って行った。しかし山口さんと巨山さんはなかなか天気が悪い。この沼澤は登ると止まらないうる急斜面の下りなので慎重になる。しかし、地形的に他に道はなく、30分のロスタイムでそのまま下ることにする。

前トム平からカムイ天上を経てトムラウシ温泉まで一気に下った。

暑がしたせいで早山さんが膝を痛めてしまった。新道まで出る予定であったが、無理をせずトムラウシ温泉に泊まることにした。次はテントを置いて、再び大岩に登り、大自然の懐に抱かれないものである。

(平成4年7月15日、15日歩く)

参考タイム

- (2日目) 天人塚5:00 滝見谷5:50
- 00 第一公園7:10 7:40 化境5:11 5:50
- 11 55 ヒサゴ沼澤離小屋12:15 (泊)
- (3日目) ヒサゴ沼澤5:50 7:00 (ロスタイム)
- 10 トムラウシ山10:00 10:10 前トム平12:10 12:20 カムイ天上15:00 15:10
- 10 トムラウシ温泉16:30 (泊)

地形図 2万5千・旭岳・トムラウシ山・オプクテシケ山

アドバイス

- ◇ ヒサゴ沼から化境と天治のゴルへ出る道、前トム平からコマドリ沢源頭の沼澤の下りは、ガスのとき迷いやすい。
- ◇ 沼澤は低気圧気象年は厳しいので、防凍対策が必要。また凍結対策も。
- * エキノコックスというのは糸虫(きなた虫)の一種で人間の体内に入ると肝臓、まれに肺や脳がおかされ、死にいたることもある。

雄大な北海道の山旅

旭岳からトムラウシ、ニペソツ、そして芦別岳

大雪・夕張

松田敏男

10年以上前に、大雪山のめぼしい山々の地形図は置いておいた。ガイドブックも買って、深たな覚に描きこんでいた。しかし、費用がかかり過ぎたことがブレイキとなって、夏が来るとは断念し、先送りが続いた。だが昨年は山の近画集の出版でひと区切りがついたこともあり、もうそんな事は言っていないと、いつか気持ちに至って、思い切って出かけてみることにした。

どんなコースにしようか。いろんなコースが思い浮かび、もうパニック状態だ。北海道は大きい。いろいろな山に登りたい。しかしゆっくりとしたペースで歩きたい。起点は静かだ。コースも人の少ない所がいい。あまほ泉にも入りたい。食糧はせいぜい4日程度が

最大限だ。なにに接の道具が3、4グラム以上ある。それにステッキ用の大きな杖と画板が入る軽装の旅行でつくられたザックは、それ自体が重い。せつかく行くのだから写真も撮りたい。ひとつめの目的地から次の山への移動は短くて日数のロスの少ない方がいい。またテント場からすやの所で薪目を受けた山が抽ける事という条件も加わる。こんなふうにいるような事情が頭の中を駆け巡って、計画段階だけで、いつもの夏山のバケーションとは随分違った仕上がりになっていったのだ。そして最終的に決まっていたのは、始めに表大雪岳を、私の旅の中心をキリギリで断断し、一度都会に出て休日を回復と食糧補給をして、あとは山旅にテントを張ってのワンデイハイイク



を3つ連続的に返すという内容だった。具体的には飛行機で旭岳(左)・北嶺岳(右)を望む山に行き、雲山(右)・深淵から裏山(左)に登り、旭岳を登った。あと、自給水と別、トムラウシと前トムラウシ温泉に下山、そして登山で食糧を買いたして、日高山脈のオホク岳・夕張山脈の芦別岳、最後に十勝岳連峰から富良野岳と三山登って旭川に帰るというコース設定だった。しかし突然は世間で見た新聞の、オホク岳山口の羽布でヒゲマを射殺したという記事を目にした。最後まで迷っていた旅のコースに変更し、そのあとの芦別岳は山を回す。この低気圧が降ってきた。前日、前日の後、霧と雨の中を登って帰るといふ内容になった。昨夏は日本の山はほとんどで雨天がなく、さっぱりだったらしいのだが、大雪連山は快晴が続く。まことに楽しい山旅だった。入山口の登山道温泉にあるヒュッテは静か

女落ち着いた所だった。標高の意からは、夕日を受けた雪崩方面の赤赤けた鏡湖が中央の中に眺められ、遠くへ来た感懐もひとしおだ。翌朝4時40分、23℃の暑さの消物を追いでいざ出発。北標高の地を踏んでいく感懐をおさえながら、一歩ずつゆっくりと進む。今日の行程は長い。先の事を考えず、遅くてもいいから休まないように登っていく。1時間程歩いて分休のベイス配分、空腹にならないうちに休憩のたびに菓子を食べる。水は出発時にたくさん飲んでおいて、途中ではほとんど飲まない。

沼ノ平まで来ると周囲は大きく開けて、別天地となる。池標がそこに湖の水を委つたりと見え、残雪は夏の日差しにまぶしく光る。ワタスが微風によるそよ風であたたかい。標高をさまよう間、全く人には会わず、湖合平までの道のりは大自然の素晴らしい景色をじっくりと味わうことができた。

標合平に到着くと、そこはメインストリートの一画、たくさんの人に行き交う。九割以上の人が、ザックに腰に鈴をつけて、熊の出番は全くない。私の出番もないような所なのだが、花々の美しい広がり、また大冒険から流れ出る冷たい沢の流れに、心は大きく解放された。



白雲原テント場付近よりトムラウシ山を望む



組島・トムラウシ山付近略図

エゾノリウキンカの群やかなを黄色のかたまりが、沢の流れと相まってキラキラと煌いていいる。中標高界に巻いた。何人かの人たちが湖につかっついて、付近には休憩の人であふれている。また先の行程は長いので、温泉に入りたい気持ちもなれず通過する。熊の強い匂いの中を急ぎ登りとなって、熊標に出た。熊標の間から、白や黄色の花々が出現えてくれる。前方にこれまでのおだやかな緑色の風景とは全く違った、異様な白灰色の光景が見え始め、中標高界に到着した。お標平が崩壊され、内池とは全くかけ離れた荒涼とした世界が、そこにあった。開官舎に登り、黒々とした岩でできている熊ヶ岳の峰を通り、巨大な草原をゆるやかに降りていくと、標高キャンパ場に達した。

と、コマクサの群落があちこちで私を出迎えてくれた。写真ではそのピンク色は洒落的に見えて、あまり好きと花とは白々なかつたが、実際のその色はなかなか高貴な気品があつて、花の女王と噂されるだけの所以に納得する。白雲原のテント場もたくさんの人たちでにぎわっていたが、線走路は大きな広がりがあった。昔にささない。たが道い所から築やカウベルの音を聞き続けなければならぬ。そんな時、自然の音が遠ざかっつてしまふ。沼ノ平の手前で、ぬかるみの中に入つてしまった。スンスプと泥の中を足をとられ、ひき返す時にあやうく靴が土の中にとり残されそうにな

だったトムラウシの明けゆく姿をスケッチする。テントサイトに戻つた時に、以前同じ職場で仕事を共にした方に会い、お互いびっくりした。

さう歩いた道を聞き居まで戻り、お標平の湖を北側へ向かう。三角形の上には雪が来つていて、雪原が印象的だ。白雲原の登りで振り返れば、第二の標高北標高が、幾つもの雪原の奥にゆつたりとした姿で眺められる。雪原の形が、内池のそれとは趣きを異にして、水河を思わせやうなななななだ。

白雲原界にザックをデポして、白雲原へと向かう。ここへ登る人はほとんどなく、日本人はワンパターンの履きだなどと思つた。岩の城塞のような形の中に草原が広がる旧火口跡は、静謐の気配がみなぎつていて、陣が出るかもしれないという予感に緊張の時が流れた。大きな岩の曲がり角などで大声を出し、私の言葉を知らせた。私の声が岩の感懐に響く。

つた。その足と靴を、中標高に流れ込む小川で洗う。コーヒーを沸かし、ゆつくりと流れる時に身をまかせた。山頂岳は岩壁で、西側が大きく切れ落ち、暗い印象の所だった。ナキウサギが、岩の隙のあちこちで鳴いているが、姿は見えない。雪色のイワブクロが大きく立派に咲いている。下りの斜面には大きな花のエゾツツジの群落があつた。

中標高のキャンパ指定地もたくさんの人だつた。しかし線走路の真つ只中、寝て身体もいなくて、快楽な夜が過ぎた。次の朝は五島原まで早歩きだ。耳上から振り返れば、湖の光にける旭岳が輝きに輝き広げて浮かびあがり、行く手には大きく迫つたトムラウシが感懐堂々と出迎えてくれる。

前標にハクサンイチゲやシナノキンバイと油壺との組み合わせてトムラウシの花の山を何枚も写す。化感界のチングルマの群落には驚いた。草原が白い花に埋め尽くされ、遙かかなたに白一色に見える程だったから、ヒサゴ沼の分岐では二匹のシマリスが、私の足を左へ右へ追いかけつてをたわむれていた。いよいよトムラウシの巻りにとりかかる。一段登つた所が天沼などの池標界で、この世のものとは思えない美しさに、思わず息をのんで、大地にへたり込んでしまった。丸

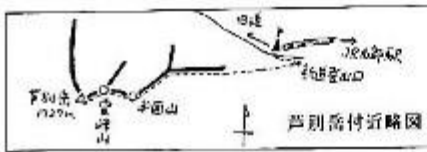
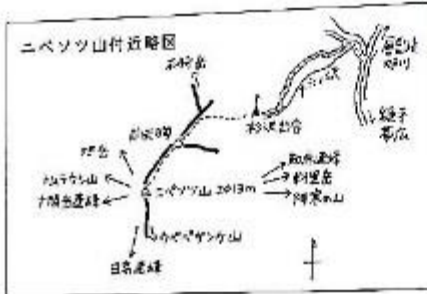
く知り込めような移でナンゲルマが機嫌にも来さぬ。深い緑の影を映す池邊に苔の配置の妙、田畑をいたいたトムラウシの威嚇、この美しさに酔いしれたひとときは、一生を味わった。

北沼を回り込んで、最後のひと寄りまで船のトムラウシ上陸した。しかしそこは人の群れ。そんな人たちの間を休むことなく通過して、一段落りた所で右の岩をよじ登り、十層塔を真正面に目を場所を探る。長く密を引く十勝岳の脚のすくような雄大な姿をじっくりと眺め、すいぶん道かな道のりを来たことに満足する。前沼のキャンプ指定地もぼんやりかたつた。

朝も快晴で、朝の逆光で青いニベソツのシルエツトを見ながら歩く。南側は北側に比べると大味で、変化が乏しかった。ツアラーの中高年の群れが百人控まってくる。そんな人たちは最後のことを考えずに、思い思いに道の真ん中に止まり歌声をあげる。私は道なりに前トム平に着き、予知外の雷風雨りをして、コマドリ沢に降り立った。ゆるやかに登りが続き、グケカンバ林の奥にトムラウシが姿を現した。にわか可愛げの情がわきあがり、トムラウシを見つけた。あとはひたすらトムラウシ温泉をめざして下った。トムラウシ温泉



前大狗よりニベソツ山を望む
ウシの噴煙とのすむ
どい対比、ニベソツ
が日本白老山に入っ
ていないことにあり
がたさを感した。
河川道を下り、八
王子の男性の車に乗
せてもらって麓平に
着く。また左側の同
じホテルに戻るが、



次の日からは台風くすれの低気圧が降すわることになったのである。
1Rで山形駅へ移動して、雨の中自然公園テント場へ向かう。前沼所の横にはラベンダー畑の目撃。小雨に降った時に急いでテントを張る。次の日は一日雨を止め込めな。お盆が近づいてきたのか、ファミリーキャンプが多くなり賑わがしくなった。次の朝は早く発とうと思っていたのだが、一日雨帯で睡眠がとれずきたこともあって、なかなか寝つけない夜を過ごした。
まだ明けぬ夜にテントを出る。今日もそんなに良い天気は空めそうにないで、前沼から出ることをやめて、奥な新道往復にする。途中が霧が切れ始め、谷に虹がかかったのだが、また真つ白な世界に戻ったまま、芦別高原上に登いた。直下のコバケイソウの花が来しなかった。
前沼の天気予報では晴れそうなのと書いていたのでもう一言して、今度は旧道歩き始めたが、きのう以上に晴れたので、1時間程度登ったところで引き返した。山頂からの電波で飛行機に注意のあるのが

は書留で宿泊できず、温泉にだけ入ってバスに乗った。
芦別町吉上のステーションホテルに予約をして宿泊できず、ホッと一口、ホテル内に洗濯機、乾燥機があつて賑わう。都会に出たらまずコインランドリーを捜そうと思っていたので、おおいに助かった。テントを巻か出たして乾かし、シニラフを室内に広げる。湿度に被れているので、じっくりとした乾燥の中で、自身もつくり、風呂に入つて、ふとんで寝られるのが嬉しい。やっぱり都人なんだなと感してしまふ。

次の朝は本数の少ししかない正午頃のバスに合わせて、スーパーマーケットで食糧の買い出しをする。翌日までバスに乗り、十勝三脚行きのローカルバスを待つことと時間あまり。その間に昼食に時間をかけ、シャネル作りの特等室で、北の国の田舎の情緒を味わう。マイクロボスに乗り、線の中の爽やかな一筋の国境を北に走り、たつた一人の客となった私は、十六ノ沢の入り口に降りた。
林道入り口の登山道に案内し、8. 担の林道を歩き出した。夕暮れが迫る中、熊のこゝろが気にかかり、ホイッスルを吹きながら歩く。2台ほど下山の車にすれ違つたあと、終点に着いた。1台だけだったが車があつたので安

心する。明けぼ東京の八三三からの男性がひとり、明日ニベソツに登りますという事だった。テントは私の一張りだけ、すぐに帰った。食事を済ませて眠りに就いた。沢の音が実にすがすがしい。

翌朝は霧がかったが、帯るにつれ、それが雲海であることに気付いた。だんだん雲海の中に出ていく過程が楽しかった。表大雪とは違って、こももとした深い樹林の道が続き、主眼線に出てもしばらくは地味な景色だ。
しかしガマガサの苔の上を登るようになる。高山の気分が出始め、前大狗に着いた。正面にはニベソツが峻険な形ですくくと立ち、はなはだ気分爽快。花も雪も乏しいが、重厚な身惑は圧倒的で深淵深い眺めだ。右側には旭岳からトムラウシ、そして十勝連峰がさうひややかに居並んでいる。後方は緑の濃淡を区根がからんでいる石狩岳。前方左には背の影が山ひだを一層まわしたせうべサンの雄大な姿。ニベソツの山頂からは同様の山々、網走岳、知床の山などが雲海の上に顔を出し、日高連峰が横に長く細かな糸がせをのスカイラインが張れた。私たちをきき、七人が頂上にはいたが、思い思いの場所にすわり、黙つてこの素晴らしい360度の大展望の中、時を過ごした。あの美しさはすのトムラウ

わかり、その日の夜には帰途で来た。
また芦別高付に行くという気持ちだが、いま高まっている。
平成5年8月3日(日)14日歩く

- ▲コースタイム▲登山道案内(5時間) 都合
平(2時間30分) 中岳分岐(1時間30分) 東
旭テント場(1時間30分) 旭岳往復(2時間
30分) 北沼岳(2時間) 白鳥岳分岐(1時間
30分) 古湯温泉往復後、白鳥テント場(4時
間30分) 史別沼(2時間30分) 史別沼テント
場(1時間) 五色沼(3時間) ニベソツ分岐
(3時間) トムラウシ山(20分) 前沼テント
場(1時間30分) 前トム平(50分) コマドリ
沢分岐(1時間) トムラウシ温泉(16分) 沢
林道分岐(1時間45分) 杉沢分岐(2時間15
分) 前大狗(1時間30分) ニベソツ山(3時
間30分) 山形自然公園(1時間) 西別岳(3
時間30分) 山形自然公園
ただし、旭岳・トムラウシ山は車道整備、ニベ
ソツ山と吉別岳は経路整備
(地形図) 2万5千ニベソツ山温泉・温泉駅・
旭岳・白鳥岳・五色ヶ原・トムラ
ウシ山・オプタアシケ山・トムラ
ウシ川・ニベソツ山・吉別岳
昭文社「12大雪山・十勝岳」

野の花讃歌 (4)

市川 正次朗

ハクサンコサクラ



数年来の夢に、
遠隔のハクサンコ
サクラに出会うこ
ゾと。J生前の夏、
白馬大池湖畔から白
馬大池へ出て来たハクサンコサクラの可憐
さが強い印象を与えたのかもしれない。
そして、昨年、「山と溪谷」誌に紹介されて
いたハクサンコサクラが満開だという火打山
と妙高山へ。笹ヶ峰から次々現れる高山植物

の前の裾原に、ひよろろと咲いていた数輪の
花を見て、そのかわいさに全副夢中になった
のです。その時の白馬山行は、前山から雨と
風にたたられ、野原登りの無いのなんの翌
朝、少しの間だけ晴れたものの、あとはガス
の中をひたすら歩くだけ。それだけに余計、
白馬大池で出会ったハクサンコサクラの可憐
さが強い印象を与えたのかもしれない。
そして、昨年、「山と溪谷」誌に紹介されて
いたハクサンコサクラが満開だという火打山
と妙高山へ。笹ヶ峰から次々現れる高山植物

を愛でながら高谷池にユツナへ。天狗の庭に
は、ピンクのじゅうたんを敷きつめたような
ハクサンコサクラの、それこそ夢のような時
落が……。その一つひとつの花が、蓮夜来の
雨のしずくを、さらさらと身によそい、ふる
ふる震えています。

火打の山頂を往復して、その夜はJTOの
ように丸い黒沢池にユツナに近接。各自で着
ける車窓の夕景、焼きだすの香ばしいクレ
ープをバターや好みのおジャムでいたたく朝食
に感謝して、妙高山へ。笹りの遠原では、ワ
グスター・チングルマ・ハクサンワウロの群落
が、ガスった花塔の西側に、見事でした。

花の山、北岳へー



山岳写真家
家・白馬史明
氏の著書で
「北岳植物が
一番多い山」
との好事に心
動かされ、8月中旬、さつさき賞借で博アル
プス北岳へ行きました。

前夜は平野市内で泊。翌朝、バスで北岳登
山口の広河原へ。日頃の精進煮、遠出をす

ると快まって雨模様。八本駒バットレスのル
ートは、雨脚が激しくなると向いていたので、
白根御池から富士ベリーのコースをとったので
すが、買だというのに驚いた。全副夢中であ
れ、泥んこになって、北岳頂の小塚へたどり
着きました。

こんな豪華大旅行なのに小屋は超簡易。寝床を
決めてもらうまではほとんどパニック状態。
それでも、自分の寝床が決まると安堵心をど
りもどす。外は冷たい雨と風、トイレに行く
たびに凍り付いた山裾の冷たいこと。

でも翌日はすかすかと快晴。雲気騰々、あま
ず北岳山頂へ。みんなで握手をかわして、今
夜の宿の北岳山荘へ。
あくる日も野天もよう。北岳山頂へ登り、
ご来光を待ちました。帳棚の雲霧の向こう
に、大きく裾野を広げた富士山が、琥珀色か
ら茜色に彩りを変え、やがて朝日の逆光の中
に沈む静かな儀式を、ただ延々と眺めていた
ように思います。この北岳山行、さすがにた
くさんの花に出会いました。タカネシオガマ、
タカネナデシコ、イワギキョウ、タカネマン
テマ、ミヤマオダマキ、ミネウスユキソウ、
ミヤマハナシソウ、ホソバトリカブト、タカ
ネホトトギス、などなど。しんどう山でした
が、花の思い出は数えきれません。

京都北山 やぶ漕ぎ痛快山行記 (1)

緑がいつぱいの森林浴コース
地蔵山北尾根から愛宕山

前日の夕方、リーダーのI君より、台風4
号が接近しているが、と道談の電話あり、台
風の現在位置、進行方向、大きさ、速さ、な
ど、当日の状況で判断しよう。ともかく、
JR嵯峨野線に乗って、これを方々を見せか
ら決めてください」とと意中をする。
その夜はテレビに釘付けで、遅くまで台風
情報を見る。翌朝、晴れ。またテレビを
見る。台風は中心は岡山県津山市を抜け、鳥
取県から日本海を向へて進み、東北へと進
み、妙高山への取り付き口、嵯峨に到着。台
風は、台風退。今日の例会は大丈夫。安心し
て、ひと旅のよ。

の顔が推し。翌日朝、愛宕山もクッキリ見
える。「山の神は我々を加護して下さい」と
可愛あいさつを交わす。霧車に乗ると、妙
高山からの方と合流して15人。花道から
Nさんが乗られ16人。これが今日のメンバー。
やはり台風のせいで参加者は少ない。
八木駅から嵯峨交通バス、嵯峨駅に停車。
我々のほかに乗客は多く、急切りバス並み。
奈良原の古船荘の田んぼの中の道を通り
に走り、嵯峨駅到着。

嵯峨から左、湯野寺の前の道を走り、道端と
別れ右の笹原の間の山道に入る。片足時まで
は追々とした山道だが、熊こもあらず、道の
端りだけが間こえる楽しい地帯。直前に三頭

山の姿が松林越しに見え、松林の中の平
地帯が古尾根、台風退の涼風が爽やかで、
汗知らずの快調な足取りが、30分で峠へと登
んでくれた。小休をとる。
ここが地蔵山の分岐の峠。ここから右に
長い地蔵山の北尾根道に入る。越後スキー場
跡まで道は下草が刈り取られよく踏まれて、
3年振りに来て道が見えなくなったのに驚い
た。左の松林の中の小屋跡に、ベブシコウ
の遺物が残っていた。戦前から戦後昭和初年
代後半まで、愛宕スキー場とともに、市内か
ら近いゲレンデとして賑わったものである。
左に檜植林、右に雑木林の湯野尾根道とし
ばらくで、ヤマカエデ・ナラ・クスノキなどの
広葉樹林の道となり、森林浴の道となる。緑
の天井、備かに覆れてくる7月の日照しが輝
い。先日、森林浴の効果を実感した。ミ
ノモントギスの葉を面白く思い出す。樹林
下の山歩きの際は、樹林から舞散られるフ
イランチッドの葉の雨よりもものだ。ミツバ
シカケタの「トウキョウキョウカキョウ」と呼ぶ
ホトトギス、「クナケケケケケケケケケケケ
ヨ」の響き、ウグイスの谷響りが交互に聞
こえる。パードウオウチンクにも好まぬ相

熊野古道を歩く

大辺路

兎嶋弘幸



草堂寺

熊野三山への道は京都を出发点として田辺市街で、山中に分け入る中辺路と海沿いを辿り下る大辺路の二つに分かれる、という説明を前々回の中辺路の項で述べた。辺路は、海路の意味だとされる。江戸時代になった熊野巡礼記には大辺路(地)を「坂の直り田辺まで海沿道を大辺地と云々」と記されており、一般的な大辺路のルートを示している。距離にして、およそ三十二里(124km)、中辺路経由の新宮に向かうよりやや遠距離といつたところだ。

ともあれ中辺路が主に熊野三山への参詣道として利用されたの比べ、大辺路は集落と集落を結ぶ生活道としての生かしの濃い道だともいわれる。

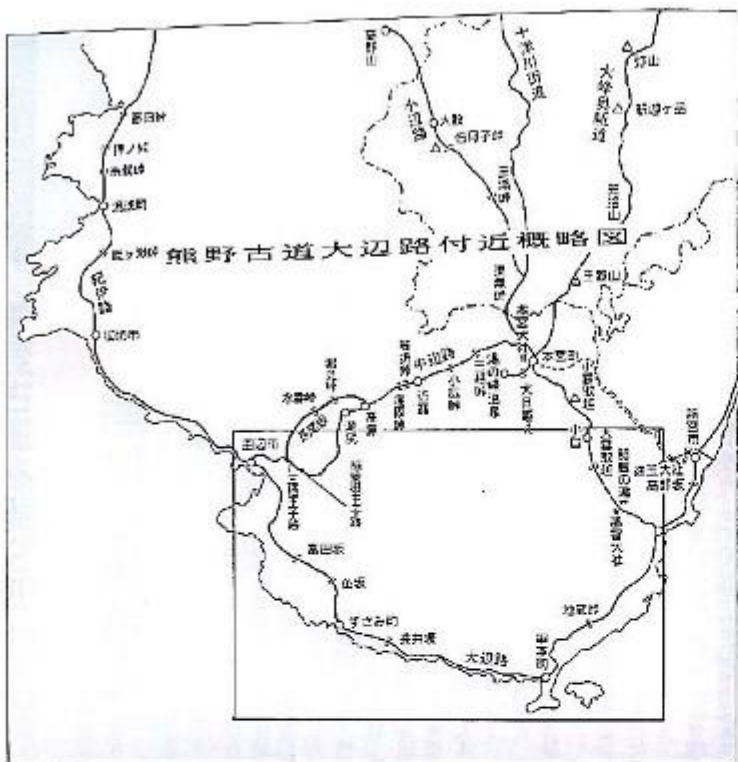
また、『熊野巡礼記』に「田辺邊り」に参る

長井坂(長柄坂)の道標



を「大辺路街道の下の路となす云々」とあるように、熊野三山からの下向道、橋路のひとつとして利用されたのが一般的である。そして大辺路の治道にも中辺路に匹敵する間所(王子辻、一里塚といった路標が設けられたようであるが、現在その多くが荒廃している状態である。

大辺路沿道の地形は紀伊特有のリアス式海岸のため起伏が激しい。従って、尾根と谷を



日置川、安居の集落



上下する險路の多い道場でもある。馬板坂、長井坂、仏坂をとり大小50近い坂が連なっている。

しかし雄大に広がる土佐洋、入り組んだ海岸線の景観はすこぶる良い。そしてこの景観は大辺路の魅力であることは言うまでもない。

今言及では、大辺路ルートの中でも比較的古道としての雰囲気が残る、「宮田表から安居辻、松林越え」「仏坂から日置川」「長井坂から見志津」「虫喰山から地蔵峠越え」の4つのコースについて紹介することにした。

富田坂から安居辻松峠越え

JR紀伊富田駅でバスに乗り換え富田備バス停へ。旧国道に沿って古い町並みを見る。しばらくして城壁を思わせる草堂寺の高い石垣が正面に見える。草堂寺は長閑な丸山草堂の描いた面を多数所蔵すること有名な寺である。

草堂寺の右手、石垣に沿って富田坂の古道に足を踏み入れる。旧富田城跡に「……板路石高く階級にして大近路街道の内城道の險にして大なるは此坂を第一とす」と記された富田坂の入り口である。竹柵をめぐると小さな切り通しの一里塚跡に到着。大近路に設けられた一里塚跡で、利根山から二十三里にあたる。右手前方に通称、城山で呼ばれる標高90mほどの馬谷城跡がある。中世の山城跡で、日置川流域を中心に勢力を築いた安宅氏が富田川流域への進出拠点として築城させたものという。城の南側の谷はかつて軍馬が飼

育されていたということから馬谷と呼ばれている。ちょっとした下りの後、右手から林道が合わり、しばらく谷に沿った林道歩きとなる。

鉄道踏切で、七曲がりと呼ばれるジグザクの急坂道を登ることになる。汗かく頃、疎林帯のすき間越しに笠置平野、白旗から田辺にかけての御座敷が広がってくる。東に向きを変え、スタジイ・アカガシなどの大木が混生する自然林の中へと踏み込んでいく。しばらくして古道として最も味わいの残る、茶屋の段の古道歩きとなる。やがて峠の茶屋跡に到着。大正八年まで店を開いていたことが確認されている茶屋で、跡地茶光が明治二十五年四月に焼けたという。ここで休憩したことが記録に残っている。

戻りを急いでいた道がこれより山肌を登り、道となる。すぐの道分岐で右に細道を見送り、

てくる。やがて、左、塩津山、右、安居坂への林道や中路上突き当たる。これより林道と併走となった安居坂の下りとなる。ジグザクの急坂を一気に下降、三ヶ川の清流と出会い、すぐの橋を渡る。右に林道が分岐している。谷は大きく右に曲がり、高さ約10mの樹の

陰を見下ろす地点に達する。祝の名について次のような説話が伝わっている。昔ここを熊通としていた田野井村の豪族、田野井筑後守には祝という娘がおり、その娘の婿に際して、沢山の嫁入り道具と共に、この滝を落とすといふ。

分岐に戻り、三ヶ川沿いの林道をたどると1時間足らず、三ヶ川バス停に到着。

△コースタイム▽

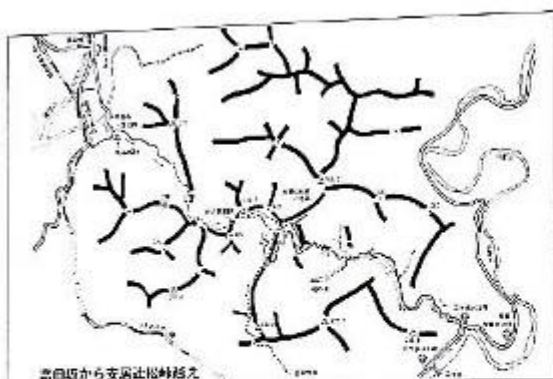
- 1 大天王寺駅(飯坂和線・きのくに線) JR紀伊富田駅(原光バス5分) 富田橋バス停(10分) 草堂寺(3分) 一里塚(1時間30分)
- 峠の茶屋跡(30分) 安居辻松峠(50分) 林道分岐(15分) 祝の滝(15分) 林道分岐(5分) 三ヶ川バス停(原光バス10分) 1R日置川駅(急行約) 2万5千1富田

△問い合わせ▽

- 明光バス 0739-225200
- 上富田町役場 0739-410550
- アドバイス

◇本コースは和歌山県の「ふるさと歩道」に指定されており、コース途中に説明板が設置されている。

◇道標が設置されていないので、若干の説話が必須。 完備 草堂寺



富田から安居辻松峠越え

富田坂・峠の茶屋跡



ひと盛りで安居辻松峠に登り替く。長い歴史を見据えていたかのように石仏がひっそりと佇んでいる。日置川と富田川の分水嶺となる安居辻松峠は、標高399m。富田坂を登ってきた道がそれれ田野井と安居に分かれる辻になることからこう呼ばれた。また和歌山から二十四里にあたる一里塚跡でもある。かつては道の両側に塚が築かれ、その上に松が植えられていたといわれるが、現在ではその松も枯れている。

安居辻松峠で、田野井への古道を右に見送り、塩津山方面に向かう。振り返ると、紀伊水道をはさんで四国までの大パノラマが開く

日本百名山と世界の山!

- 羅白岳・斜里岳・雌阿蘇岳
7月6日水~9日出 149,000円 大反発券
ツアーリーダー(1名) 8時(19時)
- 利尻岳・礼文岳・糠前山
①6/23発 ②7/10発 ③7/31発 4日間
大反発券①143,000円 ②153,000円 ③158,000円
ツアーリーダー(1名) 8時(19時)
- 大雪山縦走と雲山渓
①7/14発 ②8/4発 ③9/15発 4日間
大反発券①143,000円 ②153,000円 ③158,000円
ツアーリーダー(1名) 8時(19時)

- 大姑娘山登山頂と
高山植物ウォッチング
8月11日水~12日木 416,000円 大反発券
ツアーリーダー(1名) 8時(19時)

※旅行にもくわんコースあります。資料をご請求下さい。資料

アミューストラベル株式会社
 国内旅行事業部 256-1 岐阜市礼徳町東19-38
 岐阜市博多区博多駅前2-5-28
 博多駅前ビル10F 〒812
 ☎(092)414-5566
 FAX(092)414-8543

はたけ 仏坂から日置川

JR南参道駅下車。右にとってJLの踏切を渡り、古い町並みを見る。すきみ小学校前を左折、明神川にかかる橋を渡って右折する。やがて左手に「三子神社」の鳥居が見えてくる。神社境内には、歴史民俗資料館が併設されている。このあとJLのくりに隣の線路と交差、平行しながら大間川に沿って東進を北上する。大間川のことには、「紀伊熊原十郎」に、流路に絶え間があるので絶え間川、すなわち大間川となったと記している。

入谷の集落を通り過ぎると、左手前方に岩山が見えてくる。長沢吉雪の「若山白雲園」のモデルと伝えられている。入谷橋を渡ってすぐのところ、左手の山肌に取り付く道が仏坂の入り口である。注意して歩かないと息遣いしてしまおうなところだ。仏坂は「紀伊熊原十郎」の所創設に、「火燧坂」ともいふ。此坂の峠には松林といふあり、周参日浦と安居村との界

をいふと記され、熊野街道大内宿の中では、富田坂、馬籠坂、長井坂と並ぶ難所に加えて、これらひとつである。

かつて、この仏坂には熊野道案内人がおり、齊藤拙堂は「熊野志」の中で、「日置川ヲ渡リ仏坂ヲ登ル。亦、其、険峻ナリ、婦人ナリ、彼ニ元ツ。同宿ヲ指テ、軍サ十余貫、健ナルコト男子ニ勝ル」と書き記し、十余貫の荷物を担ってこの坂を下すする旅人に驚嘆している。

所々で石畳が現れ、大内宿古道の雰囲気が出てくる。しばらくして左手に明治三十八年と刻まれた不動尊が祀られている。小尾根に出て、東側山肌を緩う道となる。自然林から植林帯の道とを境、西側山肌を緩う植林帯に変わる。

左手前方の視界が180度開放する。日置川河口が指すでき、その向こうに紀伊水産の

仏坂から日置川河口を望む

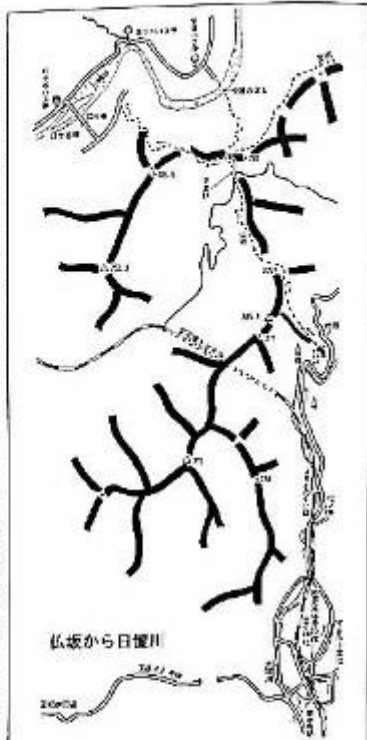


河がまがしく闊びている。やがて右堤が林道にたよってぶつりと切られている。小さな谷地は、かつて魚作場や茶店があったところという。

再び古道に入ると、すなわち道が二分する。右に登る道は、馬籠沿いに城、または小川方面に向かっている。左の道は峠に出て、安居の渡しへと下る古道である。「熊野志」に「坂を下りて安流川舟渡し也」とあるが、現在、渡し舟などあるはずはない。もちろん橋などもかつてはない。

ともあれ、ここでは時から西へ急降進を進み、北側斜面をトラバースした後、口ヶ谷の集落に下る古道を辿る。口ヶ谷橋を渡ると口ヶ谷バス停はもうすぐ。

（ハコースタイム）
JR天王寺駅（阪和線・きのくに線）JR南



山と高原地図シリーズ

定価 各700円(税別)

1 北アルプス絶頂	34 安曇山
2 白馬岳	35 朝日・岩峰三山
3 成吉思汗・南越前	36 奥山
4 越前立山	37 越前山系(越前山)
5 上高地・猪・鹿馬	38 華厳・早池原
6 奥秩父	39 八幡平(妙高山系)
7 御祭山	40 十和田湖(十和田山)
8 中央・南アルプス絶頂	41 ニセコ・磐梯山
9 木曽駒・妙木岳	42 大雪山・十勝岳
10 早稲野・北岳	43 妙山
11 塩尻・赤石・御岳	44 雲仙・伊弉・萩原
12 妙高・戸隠	45 磐石前・陣ヶ岳
13 志賀高原・草津	46 比叟山系
14 軽井沢・碓氷	47 京浜北山1
15 近上林・妙高	48 京浜北山2
16 奥ヶ岳・霧ヶ峰	49 京浜西山
17 ハッケ岳・磐梯	50 北奥の山々
18 富士・富士五湖	51 大甲・摩訶・西馬
19 箱根	52 奥秩父(二上山)
20 伊豆	53 奥秩父・奥秩父山
21 月夜	54 紀伊半島
22 奥平・碓氷	55 奥秩父
23 大菩薩温泉	56 大雪山系
24 奥平	57 大雪山(大谷・奥山)
25 奥秩父・奥秩父	58 赤石・奥秩父系
26 奥秩父1(奥山・奥山)	59 赤石山系(奥山)
27 奥秩父2(奥山・奥山)	60 大山・奥山系
28 谷川原(奥山・奥山)	61 四国山
29 新穂三山(奥山・奥山)	62 石室山
30 尾瀬	63 福島の山々
31 日光(奥山・奥山)	64 九段・阿蘇
32 奥平・碓氷	65 根田・根
33 磐梯・吾妻・安達太良	66 奥秩父系

※昭文社の「山と高原地図」は毎年更新として毎年各巻発行されます。ご山行の際にもなるべく最新版をお使いください。お申し込みの際は、昭文社の「山と高原地図」へのご質問、ご意見がございましたら、本社編集課「山と高原地図」担当までお気軽にお電話ください。またお見積りもお気軽にお知らせください。

昭文社
株式会社

本社 東京都千代田区丸の内4-2-11 電話03(326)2214(代) 〒102
支店 大阪市淀川区区南6-11-23 電話06(630)3721(代) 〒532
支店 札幌・仙台・新潟・千葉・東京・福岡・立川・名古屋・鹿児島・広島

参拝駅(15分) 天王寺駅(1時間) 入谷橋・
仏坂入り口(1時間20分) 若原宿(15分) 峠
(1時間) 口ヶ谷バス停 明光バス(15分) J
R日置川駅

◆地形図 2万5千(富田・紀伊日置
間)合わせ
明光バス 07308 (22) 52000
すきみ町役場 07335 (55) 2004
アドバイザー

◆ 仏坂の峠から口ヶ谷までの道は迷いやす
いので注意する。

◆ 道標が設置されていないので、若原十郎の説
明が必要 (見取 弘幸)

長井坂から見老津

JR熊野見駅からバスに乗り、西浜バス停下車。小浜川の車道に入る。右手にJRの線が平行する道となり、西山トンネル上部の小さな峠を越え、右手に傾斜となった小学校を見送る。口和深からの車道が右手から合わり和深川流域に出る。なかも東へ、道状に点々と続く民家の間を直進する。

やがて王子神社の神木が左手に見えてくる。大動脈に接する数少ない王子社のひとつである。和深流風土記では春日明神社と記しているけれど、住吉の和深川王子社の現存の姿があらう。しばらくして民家の途切れるあたり、右手の峠道に入り、JRの線が左に横



長井坂道標

線路を横切る。和深川にかかる丸太橋を対岸にとると、山形の丁字路。長井坂への登り口に突き当たった。

安政六年の「和深野日記」に、「和深川の里をすき長井坂にかかると。此坂もみちいどけわははしく、一里あまりがほど人家なし。あへきあへきこえて三老津の里にてしばしいこいて、こより浦つたりに福山を上りくだりつて午後江任の里につく。周見よりは四里とぞ」とあり、難所で知られた長井坂の状況を書き記している。

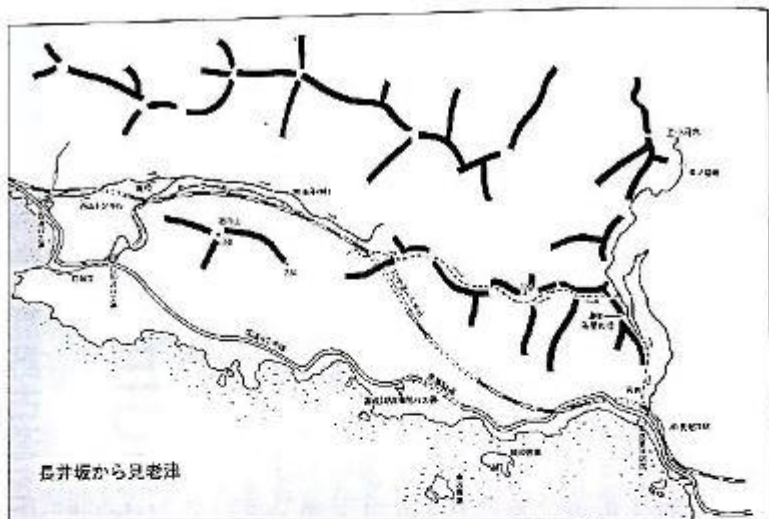
左に道をとり、双子山トンネル上部に叩くジツザクの坂道を登る。小さな切り通しがあり、眼下には和深川流の海が広がっている。右手、樹々の間越しに、枯木灘の海岸線が広がる。眺望の屋根歩きとなる。まっすぐ登びた古道は、かつての街道を色濃く残す快道な道標となる。やがて沖ノ原、陸ノ原が

陸ノ原、沖ノ原



右手寺谷となり、見老津の勇仕を海岸線が目の前に飛び込んでくる。しばらくして道分となり、右に石段を10数ほど下りかけると、道が忽然とシグにおおわれてくる。ここは道分まで戻り、左手に道をとって、すぐに合分分岐を右にする。ほどなく長井と香ノ崎峠を結ぶ直道に飛び出

る。茶屋の段で呼ばれる車道脇に、「ひだ里ハくまのみち みぎハやまみち」と刻まれた、高



長井坂から見老津

さ40センチほどの古い石標が目につく。香ノ崎峠と見老津の道分、南の方から見て、右の車道が香ノ崎峠に向かう道で、左の道が熊野古道入道路である。

かつて旅人たちがこの辺りまで来て、太平洋を眼下に本州最南端、潮岬まで望見できる、雄大な景色に感嘆の声をあげた。熊野詣の往來の嗜好の休憩地として、未だ、江戸時代の終わり頃には、潮木利長衛という人がこの付近で茶屋を営んでいたと行われる。

道標をあとに、前に車道を進み、左に大きくカーブを描く車道をやり過ごして、再び尾根状の古道に入る。やせ尾根沿いの急坂道を一気にかけ下る。箱庭のように見えていた海岸線が目の前に近づくと、JR見老津駅はもうすぐとなる。

▲コースタイム▼
JR大生寺駅(和深)・きのくに線 JR熊野見駅 明光バス

4分 西浜バス停(15分) 峠(10分) 王子神社(15分) 長井坂入口(1時間20分) 長井坂道標(50分) JR見老津駅
(地形図) 2万5千11江任
(問い合わせ)

明光バス 0739 (22) 5200
すさみ町役場 0735 (55) 2004
アドバイス
◇ 茶屋の段から見老津への道が、柔道によって敷に敷かれることがあるため注意する。
◇ 道標が設置されていないので、若干の説図が必要。(見老津 見老津)

登山に必要なものは、
国産・絹糸
すべて揃っています。

足にピッタリ/
登山靴のことならお任せ下さい。

T604 京都市中京区丸太町通堀川東入
☎ (075) 211-5768
FAX (075) 211-0318

山とスキーの専門店

京都 ムラカミ

虫喰岩から三つの地藏峠越え

JR古座駅で松原または小川行きバスに乗り、古座川町役場前下車。車道を東にすると左手前方に、高さ50m、幅10mの岩の石炭層面岩の奇巒、虫喰岩が見えてくる。露出した側面には、大小のくぼみが無数にあり、ちょうど虫が食ったような奇観を呈することから虫喰岩と呼ばれている。虫喰岩には次のような伝説が語り伝えられている。

昔、岩を食う悪魔がこの辺りの岩を食い荒らし、古座川峡谷を奥へ奥へと食い進んでいった。ところが一枚岩まで来たときに、一枚岩の守り犬が猛然と悪魔に襲いかかり、魔物を追い払った。そのため一枚岩から奥には虫喰の岩が見えなくなるのだという。

なおも東にとると車道が左に大きくUカーブを描いている。ここで山道を直進、山裾に取り付く。道は小さな切り通しを過ぎ、緩やかな登りとなる。ほどなく、「左 さべみち」

「右ハヤマミチ」と刻まれた石碑が崖に埋もれるように立っている。左にとると、すぐに熊野山の地蔵峠に登り着く。

峠を後に、津海川源流沿いの道となる。林道工事によって、古道が所々で断ち切られているため、やむを得ず林道を歩くこととなる。つがこの地蔵を祀る時に出て東に下り、田原川沿いの林道を進む。やがて佐部集落の入り口付近で、谷に沿った林道が右に分岐する。右側は分岐路、湯谷に立ち寄ってあること

にしよう。谷間から源泉の冷気が湧き出ているだけの、何の音もないうところはあがあるが、自然の音みに何ともいえない感動を感ずる。

先ほどの林道分岐まで戻り、上田原に向けて車道を歩く。途中、戦国期の典型的な山城といわれる佐部城跡の岩山がある。ここは戦国時代の熊野の二大勢力、新宮の堀内氏と古

虫喰岩

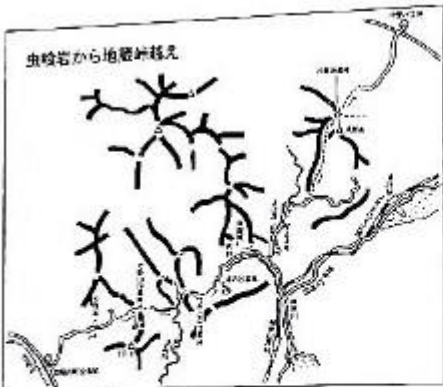


座の高川原氏が山野を血に染める戦いをした佐部城攻防戦の舞台として知られる。

なおも東にとると、車道が二分する。右に少し進んだところで民家の右側山手に、八郎地蔵峠に登る山道を見つめる。ウバメガシなどの木の茂る道を、ときにはシダをかき分けながらの緩やかな登りとなる。登るほどに踏み跡がはっきりとする。岩肌に見える尾根道となり、右側方には八郎山が見えてくる。振

り返ると熊野灘に大鳥が浮かんでいる。

間伐の進んだ道となり、熊野に出て、右へ少し下った後、谷を登り詰ると小高い台地の八郎地蔵峠に飛び出る。時には「宝曆十一年五月廿四日」と刻まれた石地蔵が祀られている。ここで少し寄り道をして、八郎山に登ることしよう。南に延びる尾根道をたると緩やかな行状の登りとなり、一等三角点の標石が埋まる八郎山頂に飛び出る。山頂からは四方に及びず、眺望が360度に全開する。



足下に熊野灘の伝説が聞け、背後には妙法山・熊野十山といった山々が指呼できる。峠に降り古道を歩き、峠から五分ほど下ったところの分岐を左へ、谷に向けて下降する。植林帯の谷沿いの道となり、地蔵峠を記する車道に飛び出る。これより車道は、中里バス停へと向かう。

ハコースタイム

JR天王寺駅(阪和線)までの総一里古座駅(バス8分) 古座川町役場前バス停(40分) 油野山地蔵峠(35分) つがの地蔵峠(25分) 湯の谷(40分) 八郎地蔵峠の入口(50分) 八郎地蔵峠(5分) 八郎山(30分) 八郎地蔵峠(40分) 地蔵峠(20分) 中里バス停(10分) JR太田駅

地形図 2万5千1古座・下里・紀伊勝浦間い合わせ

明光バス 07339(22) 52000

古座川町役場 07357(2) 0180

アドバイス

◇ 古道が林道工事のため、所々で断ち切られているので注意する。

◇ 道標が設置されていないので、若干の迂回が必要。

(印刷 弘幸)

エリア別徹底研究

熊野古道を歩く

尾崎 弘幸

この熊野古道を歩くシリーズは、本書第14号(9年新巻)から連載しています。各ブロックごとに、毎号4コースを紹介しています。今号で、14号・15号までのコースは次の通りです。(あと各号を各々の12コースを紹介し、合計24コースになる予定です)

- 第14号 紀伊路(紀伊本道)四所峠
- ① 藤白神社から藤白峠越え
- ② 押の峠から無坂
- ③ 船生寺から赤坂峠
- ④ 津関から龍ヶ崎峠越え
- 第15号 中辺路(新宮)から熊野本宮大社
- ⑤ 云原坂から瀬見峠越え
- ⑥ 湯尻王子社から釜坂峠
- ⑦ 近路の里から小伝峠
- ⑧ 三越峠から熊野本宮大社
- 第16号 熊野三山への道(天智取)小巻取越え
- ⑨ 熊野本宮大社から大日越え
- ⑩ 熊野通玉大社から高野坂
- ⑪ 大門坂から大巻取越え
- ⑫ 小和瀬から小巻取越え

近世の伊勢街道ハイイク ④

伊賀街道(南山城の伊勢道)

JR相模線→神倉寺→桜峠→善仁京跡→岡田神社→加茂駅(14分、4時間)
 岡田加茂神社→山田→笠置駅(8分、2時間)

中村敏文

近世南山城の伊勢道は伊賀街道神道子越えが主な道筋で、木津川右岸の山越え小峠を越えて伊賀上野に至り、藤原経信の伊賀街道を東進して油城下で参宮街道に入るが、伊賀越え委員街道をへて月本の追分で参宮街道に入るが、また下野から南下して初瀬街道にて、六軒茶屋で参宮街道に入っていた。



和伎神社(惣倉)
 乃夫殿充命の神を祀り、伊賀街道を伊勢大神宮より遷し、和伎大神神と称していた式内の細社

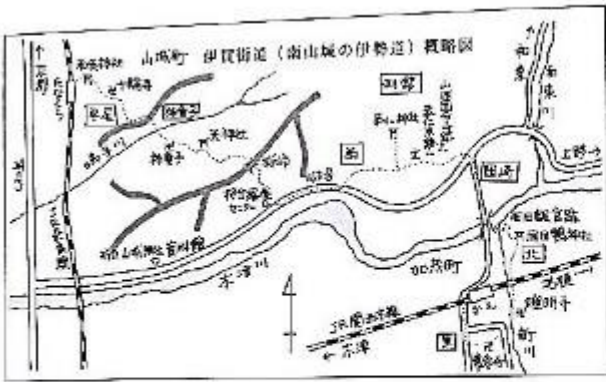
で、境内の東側に近世の伊賀街道が残っている。木津川左岸の坂道越え奈良街道が参田から渡り、右岸の飯沼へ渡り、奈良坂越え奈良街道と重複しているこの地は、交通の要所であった。

伊賀街道の旧道を半々も行く、鎌倉時代の十三重石塔と等塔を本堂前に残している十重塔がある。十輪寺から西進して並木の上坂内へ入り、伊賀地を抜けて神倉子の勢子川へ下るが、隠岐街道といわれている。

鳴子川を渡り、笠置された車道の坂道を登り始めると和伎子集落の入り口で、古い石仏が多く残されている。村の標高が高上にある。神倉子は山岳密教の修験道の霊場、神倉寺の霊地にしたがって形成された集落で、伊賀街道の鞍馬への登り口に位置する。笠置・笠置も近い、近世の伊勢参宮道中を始め、山城寺

伊賀の道中者のけっこうな体感であった。神倉寺は聖徳太子の創立、天武天皇の御代に改行、行者が神童と化した験子・千守・金輪に助けられ、或王権を伴う本尊として神皇御霊寺としたが、備前が開いたなど伝承されている。応永十一年(1406)建立の富士堂は本文指定を受け、宝暦には平安時代の数点の本文指定の仏像を納め、境内の十三重石塔は鎌倉時代の古塔である。神倉寺の鎮守であった大神社は、室町時代建立の三間社瓦葺の本殿を残し、本文指定の建治三年(1272)銘の十三重石塔が境内にある。

大神社の西側に一石の道、の道標が残り、海抜1600mの鞍馬は神倉子越え伊賀街道の難所、木津川ベリりの登り口には「右へ京ミウ」の道しるべが残っている。30分もあれば越えられる山越の峠だが、4月始め、峠からの下り道は桜並木がセンターの新緑道で整備された桜並木が潤滑で、5月頃には道筋にタンポポがいっぱい咲き乱れ、秋は木津川を見下ろす坂道の紅葉がとて素晴らしい。山城町・加茂町の境界付近の木津川の断崖は、国道163号線に沿って整備されて、車の流れが多く気が散るが、木津川の眺めが広々としている。旧道を1.5ほど、加茂町西への



旧道を1.5ほど行くと思われ、和伎神社の参道がある。神社は木津川北岸の善仁郷に開通する社であったと思われるが、近世は天宮神社と称し西村と奥畑、井平塚などの村が祭祀していた。



伊勢大神宮への例祭使に開通する地名の例祭へ入り、1.5も行くと思われ、善仁京跡で、古代の善仁の中心地である善仁小字後付道が良跡とされている。奈良時代初期には、この地に飯原隆吉が存在していたようで、『日本書紀』に元明天皇が三回、伊武天皇が四回も行幸したと記され、藤原広嗣の乱を平定した天武天皇は天平十三年(741)に善仁西郷郡を計っている。天平十六年(744)には藤原京に遷都しているので、大規模な土木完成の短命の都であった。遷都後に大内宿禰へ山越回分寺を移したともいわれ、現在は善仁寺の礎石を取り入れて公園になっている。

善仁京跡から南西へ流れる丘陵を鉄可へ抜け、利永町の城、木津川左岸の空堀切山を登り、伊賀街道に至る。伊賀街道は、山越ハイキングコースを形成しているが、南山城村の大原原地区は国道163号線に拡張されている。北大原原から山城・伊賀の国境へは、関所本務の大原原トンネル上に旧道が残っているが昔の面影はない。

前鬼から釈迦ヶ岳へ

松永恵一

大峰山脈に「ブオー」というホル貝の音が響きわたる。「御前」六根清浄」と唱える徳念仏がこだまする。

吉野から熊野に及ぶ大峰山脈を縦断する修行は、深山幽谷の大自然の中をひたすら歩く抖擻行で、体力と精神を限界まで振りきりまで追いつめて、無心になって大自然と同化し、大峰山中奥々にある七十五の窟(宿)の神木、赤松、石像などの前で誠意し祈る。己の六根(目、耳、鼻、舌、身、意)に宿る非や穢れを払い清め、同時に他人の罪や穢れをも払い清める。

湿った土のほよい弾力を靴底に味わいながら進む。深い谷まで埋め尽くす厚い樹林の重なり。樹林と樹林の合間の小さなお花畑。

シャクナゲやガクアジサイ、そして霧の中に匂う五弁のオオヤマレンゲの群。

山中をただ黙々と歩いてみると、歩くというのとはたしかにひとつの快楽だと実感させられる。長い呼吸をきき、きつい整りできえも森を流れる空気を深く吸い込むと、土と緑の匂いが全身を駆けめぐり、眠っていた野性が呼び起こされるようだ。眠った気が分り、息を深くかきつけて匂いをかぐ。

自然の息づきは、そこで力を出しきり、身をゆだねた者のみに、新たな息吹きを蘇らせてくれる。

この霊場には、いまも僧侶が生きている。大自然の息吹と、その尽きないエネルギーが、神仏習合という、日本のもっとも自然で力強い宗教世界をつくってきたのである。

釈迦ヶ岳 (『大峰山中秘蔵絵巻』)



深山霊窟頂
釈迦ヶ岳の山腹には、奥野最大の秘所深仙がある。ここは大峰山中の中心ともいわれ、本山派修験の霊頂道場として栄えた所である。この地で、修験道では最も古い本山派の峰中最大の秘儀、宇宙そのものを象徴する大日如来の秘印を授ける「深仙灌頂」が行われ、それにあわせて、宇宙を示すとも思われる柱を中心シンボルとして、宇宙の開闢や人間

の起源を象徴的に満する修験道最大の秘儀「柱灌頂」の秘法も伝授されていた。こうした秘儀がこの地で行われたのは、数多い大峰山中の霊場のなかで、とくに宇宙山の中心ともいえる位置を占めていたからだろう。

伝説では深仙は役行者(役小角)の大峰山における霊所。近くには、役行者が身体を清めた御手水の井戸があった。毎月7日に金峰山に祀られている富士の石像に、15日には三重の岩海老の阿弥陀仏の参拝におもむいたという。深仙の少しさきには大日岳(高野岳)の霊場がある。この地に役行者の母がいて、役行者は毎日この行場をまじきりて母を拝したという。その故事に倣って山伏たちが20日余の修験を一本の鎖をたよりによじ登る。登り終ると、行者の母を祀った山上の小祠で祀られる。

現在深仙宿には蓮華堂があり、近くの岩の壁から昔の葉伝いに滴り落ちる香清水は、行者の頭頂に滴り、即身即仏となり役小角の血脈伝法者となる灌頂の秘儀に用いられる。深仙から川に沿って急坂を下ると、灌頂道場を守ってきた修験道師の居る。現在は小仲坊の建物のみが残る。ここには前鬼修行場があり、三重の滝、天の十八宿(宿禰、両界、須賀など)は、はげしい修行が行われる。

西行の大峰修行

深沼の歌人西行は、天台座主となり平等院に住した行脚停止の大峰修行に心をひかれて、自身も一度にわたって大峰修行を志す。その間に詠んだ歌を「山家集」に収めている。この修行については「西行物語」にも出てくるが、熊野修験の宗南坊(修行の先達)で、歌に熊野から大峰へと降入する語が「古今昔聞集」巻五「釈教五七」西行法師、大峰に入り難行(修行の事)に見える。

宗南坊に誘われた西行は、はじめはとてついで行けないとためらうが、むつかしい作法や錠はみな免除しようとするので、一度行ってみたい所と思っていたので決心して同行する。だが実際には人より時にまじしいし、こきに遅ってすつかりべそをかき、先達の命令に従って身を苦しめ木をきり水を汲み、きつくと叱りつける言葉や聞き、杖で打たれるのは油断の苦さつくやうなもの、食草が少なく飢えを忍ぶのは猿の悲しみをつくやうなもの、重き言物を背負い峰を越え、谷を登るの苦さは生身の報いをはたすため、このように終日身を苦しめ費めて、晩に寝静まりを悔れを払い清めるのは、地獄・煉獄・三途の三悪道から無垢・無悩のけがれもない清き世に修行したためであると諭され、入峰に専念する。

西行の大峰修行の道程

西行は俗名を佐藤藤清とよひらといい、葛城山の北面の武士で、出家の折の記事には「重代の勇士」と記された。源頼朝が西行から兵法と和歌の奥義伝授を乞ったという「吾妻鏡」の話も面白い。山伏の先達にしてさあかされて泣きべそをかいたというのは、大峰修行がどんなに難行であるかを作爲したものであろう。

西行の大峰修行の道程には、歌を詠んだ場所が同書として記入されている。信仰上の主眼はいうまでもないが、題材としては月の歌が多い。西行は月輪を見て、月の圓滿・清浄・明潔を觀し、宇宙境界即自身を体観するといふ月輪觀の実修をしたのであろうか。大峰の深仙と申す所にて、月を望み詠みける

深き山に すみける月を 見ざりせば
思ひ出もなき わが身ならまし
深い山、ここは深仙の空にかかると見なかつたらば、何の思い出もないわが身であったことだろう。「一生の思い出となる月を見ることができたよ。」
空の上も 同じ月こそ 照らすらめ
所がらなる あはれなるべし
大峰山の頂さをも同じ月が照らしていることであろうが、ここ深仙に照る月が特にあはれに照らされるのは場所がらゆえであろう。



深山・小池と前鬼修行場 (『大乗茶中秘密絵巻』)

コース概観

今回のコースは、前鬼口バス停から前鬼峠道に入り、不動の大滝の見事な姿に感嘆の声をあげ、修行者に使役された鬼の子孫が住む、修験地帯として有名な前鬼に一泊し、本山派修験の深山潭頂の道場として栄えた深山の宿を通り、近世期には富士山と並ぶ名山とされ、「大の嶽」と呼ばれ、二親遊・二石遊と記された歓迎ヶ岳(1799・6)に登る。

近鉄大和上市駅前より約55分先の杉の道行きバスに乗り、杉の湯で新道行きに乗り換え、前鬼口バス停に降り、バス停の食堂で山の情報を聞き、横の休憩所で身体を整える。池原野水池を右に見ながら、前鬼峠(雷正)の近のりをひたすら歩く。西ノ谷の出会いを過ぎ、長い長い林道歩きにいきさか嫌気がさして行く。前方に不動の大滝(不動七滝)が壮麗な姿を見せる。初めてこの滝を見たとき、圧倒的な迫力と美しさに魅了され、このような美しい自然があるかぎり、時には仕事を休んでもまで登りに行きたくなることがあるのは何万がなと思った。

バス停から大滝前まで約600m。さらに200mの連続歩きが続く。1号から4号まである遊歩道の前鬼トンネルを、天井からボタリと落ちる水滴を羨しみながらくぐる。眼のすばらしい溪谷美を羨しむ。森林が斜光に輝き、深とのハイモニーがじつに美しい。清流が岩を叩き、悠々の時を経て、大岩の角が丸くえぐられたらうになっている。珊瑚色の溪谷のまことと魚が遊泳している。かつてこの溪谷で、只ものアマゴが釣れたという。

林道に別れを告げ、鳥谷の吊り橋を渡り、石畳やコンクリートで舗装された道を坂道を

登る。このあたりは山ヒルの名所なので、前鬼からの登山に十分注意したい。道が平坦になると、もうそこは前鬼の小仲坊。四方を山に囲まれた桃源郷。修行者の小隊を導くように命ぜられた五人の子孫で、前鬼に祈告を建て、行者の遺法をついだ。五鬼と呼ばれた子孫は、不動坊・行者坊・中坊・森本坊・小仲坊の五坊で暮らし、山伏のかたわら林業や農業に従事しながら、深山・釈迦ヶ岳・前鬼修行場を守り続けた。もっとも明治以降に出が戻り、最後の柱人であった小仲坊の五郎さんと呼ばれた五鬼助養父氏が昭和59年に亡くなってからは、五鬼助養父氏がシーズン中のみ通ってこられ、宿坊を営まれている。今夜はここで泊まることになる。

前鬼の修行場では山上ヶ岳の修行場以上のほげしい修行が行われる。西行法師もこの地で修行して歌を残した。身につもる「三葉の罪」も洗はれて心澄みぬる「三重の滝」(山家集)翌日は早朝に出発。行者堂の横から音響した石垣の残る宿坊跡を通り、杉の木の薄暗い道を過ぎ、広葉樹の巨木の間を歩む。大きな岩のゴロゴロした割谷を渡り、イブキサヤススタグの産生する小道を登り、再び清流の割谷を渡る。木の梯子登りが続く。ひ



つそりと咲く花を眺めながら息を整え、懸命に登る。クリカラ不動岩が出現してくる。少し作くと二つの岩が並立する阿豆子出、不動明三の願主である御吒迦童子と修行者童子に見立てられている高さ約100mの岩柱。二つの岩の間に登ってみると、吸い込まれてしまふような紺碧の空が広がり、釈迦ヶ岳の東

峰が夏の日光しなかで輝いていた。

トノキヤミスナラの大水の間を船に汗して登る。船の水場と隔はれる水場を通り、太古ノ辻(雷正の森)に着く。道標の横に響くべが岩が仲良く立っている。南に向かうと熊野コースは北へ向かう。西側の山頂をからんで登る。大日岳(1799.6)は、宇治岳ともいわれ、傾斜50度、長さ330mと言われる岩場を鎖を頼りに登る。東側は限もくくむような断崖絶壁。山頂からは台高山脈が一望のもとにある。

五角仙を経て、紫雲の森を過ぎると、大日岳と釈迦ヶ岳との鞍部の深山(神仙)荷、やわらかな草の台地の広がる深山の地は、修験道最大の聖所である。深山の芳香が入けのない原生林を渡り、ほのかな香りを鼻先に運んでく。

深緑に突き上げている登山道に取り付く。標高差約300mの急登。植木の都林間という趣内くぐりの岩場との分岐がある。1等三岳点の釈迦ヶ岳山頂には、高さ3.5mの巨大な金剛梨の求道如来像が立てられている。大正13年、オニ雅と呼ばれた河田雅行といふ男がひとりでかつぎあげたもの。3000度の崖壁に目を細めながら、コーヒールを飲み、グリーンフルーツを食べ、のんびりとすごした。

足元に咲く花が、静かに風に揺れていた。

大日岳の西側の急斜面をからむとすると太古の辻。二気には高さ700mを駆け下る。大日岳から前鬼の宿へ下った溪谷に、夕日がすべるように落ちた時、ヒグラシの音が、谷の左右の緑を切り裂くように響いた。

コースタイム

近鉄阿倍野橋駅 徒歩約1時間5分 大和行約1時間35分
大和上市駅 徒歩約2時間25分
前鬼口 1時間30分
前鬼小仲坊 1時間15分
前鬼小仲坊(酒)
前鬼小仲坊(2時間20分)
大日岳(10分)
深山(30分)
釈迦ヶ岳(45分)
大日岳(1時間30分)
前鬼小仲坊(2時間30分)
前鬼口 1時間30分
近鉄阿倍野橋駅

近鉄阿倍野橋駅 大和上市駅 8500円
特別割引料金 7200円
大和上市駅 前鬼口 2000円
青物代 天かいリニック 200円
地形図 2万5千 池原・釈迦ヶ岳
問い合わせ

奈良交通バス出野07475	(2)	4101	
小仲坊	0768	(3)	2210
小仲坊五鬼助養父	0742	(23)	1397

関西周辺

夏の山

特選 コースガイド

- ① 槍戸山
- ② 鏡山
- ③ 大枝山
- ④ 元越谷源流尾根縦走



夏の山・雄感

暑い、暑いと言っても仕方がない。夏は暑いに悩まされている。クーラーの効いた部屋、テレビの前でゴロンと横になつてビールを飲んででも可くない。旅行に行けばお金が飛んでいく。野の野外では、スポーツもままならぬ。こんな暑い夏をうまく乗り切れないだろうか。

そう思つて始めたのが、ハイキング・山歩

ある。何？ こんな暑い暑中に山歩きなんて……、と思ふのだが、この暑い時のハイキングがたまらない。

一日かけて車道を背負い、大池をかきながら登つてきた。体がずいぶん軽くなった。余分な水分がなくなつてもう汗はかかないだろう。さあ、これから撤収だ。夏山の天気は気持がいい。太陽は相変わらず強烈に日差しを照りつけているが、下方から吹き上げてくる涼風が心地よい。見晴らしも素晴らしい。

高山植物が今を盛りに咲いている。短い命をいと惜しむように、清楚な夫しきで岩盤で風に揺れている。白い花が多い。そして黄色や赤、紫の花もある。色とりどりに咲く花たちに巡り会ふことも夏山の楽しみだ。

山小屋が治まるより、テントで寝るのが好きだから、気ままにキャンプをする。水を汲んで粗末な夕食を作り一人で食べる。谷の水で冷やしておいた缶ビールの喉ごしがなんとも旨い。

山の夜は静かだ。何一つ音がしない。じつと目を瞑つているが、なかなか寝つけない。そこそこ起き出して、ウイスキーを飲んでみる。谷の天然水で作った水割りがこんなにおいしいものとは知らなかった。その内臓が回れば寝つけるだろう。

たのしい山歩き

尾瀬雑考①⑦

「初冬の尾瀬」

松下 満

「尾瀬のベストシーズンは」という質問をされて返答に困ることがある。5月下旬の水芭蕉が開花し、10月上旬の紅葉まで一般的なシーズンを明ける尾瀬。人の好みはそれぞれ違うので、「お出かけになる時がベストシーズンではないでしょうか」としか答えられない。

今回は私が最も好きで居られる。初冬の尾瀬。を紹介してみよう。10月15日過ぎると入山者はぐんと減り、初冬の気配に樹々は落葉に大忙しの日々を送り、空を駆けめぐっていた鳥たちも鳥・山鳩を残して暖かい地方へ旅立って行く。そしてやがてその鳥・山鳩も

いつしか姿を消す。

この時期のアヤメ平では、池に水が張り水面に風紋を見ることが出来る。好大の早蕨、アヤメ平で発見できる幸仏山は朝日に赤く染まり、山の端に霞月がかかり絶好の絶景となる。また雄ヶ岳・平ヶ岳と周辺の山々も手に取るように望める。

10月20日以降になると積雪。私の経験では10月3日に20日の初雪に出あったこともある。アヤメ平は、富士見小屋を利用するのが便利だが、休憩することがあるので要注意。

一方尾瀬ヶ原では毎日のように降霜が続き、散り残った木の葉に霜が降り、木道も白く見え、霧の中へ深く、立ち枯れの草、葉を落とした木の枝に露水の音が咲く。早朝だけに見られる尾瀬の美作品だ。カメラのシャッターを押すのに夢中になつていたら突然人影が現れることがある。よく見ると霧の中に赤・青・黄と色とりどりの防寒具に身を包んだ登山者がまるで浮かんでくるようだ。日が昇るとこれ霧水の儼い一日は終わる。まるで幻想の世界を見るようだ。

星の尾瀬ヶ原至道宮付近、人影のまばらな木道に寝そべって流れゆく雲を眺める。静けさが静会の呼吸を忘れさせてくれる。突然体の上を何かか走つていく。じつと知っているとき

た上に乗つてくると、そっと見るとオコジョだ。好奇心旺盛なこの動物は、リュックの回りも嗅ぎ回りとでも愛くるしい顔をしている。降雪に纏え体の一部が白くなり始めている。日が合うと木道の下に逃げ込み、しばしばくすんとかけ、顔だけ出してこちらの様子を窺っている。この仕草が何とも可愛い。知らんぷりをしていてもまた体の上に乗つてくる。こんな出来事に出会えるのもこの時期ならではのことである。しかも多勢の山行ではとても期待はできない。せいぜい四、五名くらいの出行でない……。

強肉強食というが、こんな残酷な光景をみ見かける。雑食性の鳥も餌になるものが少ないこの時期、雛鳥が共同作業で山鳩を襲うことがある。凍く飛べる山鳩も鳥の作戦にまんまとひっかかりあえない最後を遂げる。

尾瀬の10月15日以降はいつ雪が積つてもおかしくない。それだけに雪に對しての装備は充分にした。昭和30年代前半の10月18日長原小屋に宿をとつた翌朝、窓の外を見ると一面真っ白、約60%の積雪で、宿泊者に声をかけラッセルしながら大池水へ下つたこともある。初冬ならではの思い出である。用意したワカンが役に立ったのは言わずもがな……。

阿波の秘峰

槍戸山

中級コース (★★★)
尾野 益大

阿波の秘峰、剣山(山頂)の山で、槍戸山(1820m)ほど前峰に預けられ、秘峰の空間に身を投ずることのできるピークはない。国土地院発行の地形図には山名の記載がないが、一ノ森の南方より「一ノ森」のピークを通過し、槍戸山と呼んでいる。一帯は驚くほど巨木林が多く、若々しい灌叢は多く、密々として力を失いかけている老年の雲母の遺蹟に満ちた山である。

しかし一方で、ミニチュアながら立ち並ぶ無数の古木がササの緑と調和して美しく映え、他の山域ではめったにお目にかかれなぬ風情がある。狭い天辺からのパノラマも息をのむほどで、こちらも驚くべき山、山の雄偉さを、中でもこの山で充分に堪能できる。

予然として滑々しく見える所はない。迫ってきた剣山や一ノ森の厚木山裾を見れば、ある。

山頂までのコースだが、最も容易と思われる一ノ森からの縦登をすすめたい。マイカー、バス共に、1号線(徳島自動車)から口光川を逆上り、見ノ越まで入る。剣神社の石段から登り始める。鳥居をくぐり、杖懸前を抜け、リフトを降りると口光林の豊かな登りになる。右に左に急峻な山があるが、まもなく西阿波神社である。古川泰治の小説「阿波門」で紹介された歴史の秘峰阿波が閉じ込められた行年と称する洞窟がある。やがて森林帯が切れ、前方にリフト塔が見える。右手には、丸石や三ノ森の雄姿が見えらる。大剣神社を経由して後峰に乗れば、まもなく剣山山頂にエッジの鋭い山頂を通り、洞窟のある山頂に出る。平家の居場所といわれる山頂の一部で、三角点へは少し西へ歩かなければならない。三角点を往復して初日の行程をこまめとして、ロケットで前を歩くと、時間に余裕がある。徳島県第三の高峰、杖懸前へ足を運び、山頂は、剣神社から真東へ向かい、山頂に根を伝う。立派な登山道が、一ノ森まで続いていく。ミニチュアの多い樹林の切れ間からは、

一ノ森から見た槍戸山



が、天辺はもうすぐだ。左手に新九郎山、折子谷川、平家平の山並みが遠くに見え、右側は、いつの間にか松山山頂に到着する。東側が切れ落ちており、狭いので足元に注意しよう。登山道は、三角点のない静かな山頂。たが時々聞こえる鳥のさえずり。林道からのエンジン音には驚かされる。下山は、杖懸前を渡る。所要時間も剣山までは往路と同じだ。西側からリフトを降り、下りる場合は、見ノ越からバスを利用するのであれば、時間を確かめて、間に合うように行動していただきたい。

完成するまで11月20日歩く



槍戸山付近略図



槍戸山から望む剣山(右)と次郎堂(左)

るが、天辺はもうすぐだ。左手に新九郎山、折子谷川、平家平の山並みが遠くに見え、右側は、いつの間にか松山山頂に到着する。東側が切れ落ちており、狭いので足元に注意しよう。登山道は、三角点のない静かな山頂。たが時々聞こえる鳥のさえずり。林道からのエンジン音には驚かされる。下山は、杖懸前を渡る。所要時間も剣山までは往路と同じだ。西側からリフトを降り、下りる場合は、見ノ越からバスを利用するのであれば、時間を確かめて、間に合うように行動していただきたい。

- ハコースタイル
- 見ノ越(1時間50分) 剣山(1時間10分)
- 一ノ森(1時間) 槍戸山(50分) 一ノ森(1時間10分) 剣山(1時間) 見ノ越
- 地形図 2方5千 剣山
- 昭文社「四国登山」
- 同じ合わせ
- 徳島バス観光部 0883-333333 (02) 33333300
- *見ノ越行きは要予約のみ3車
- 剣山山頂エッジ 0883-3333 (08) 211128
- 木匠平付第一ノ森エッジ
- 0883-68 21111

2等三角点のある山

鏡山

初級コース(★)
山形 歳之

琵琶湖の南、近江平野を見下ろす山の一つに2等三角点を持つ鏡山がある。

標高が344.4mと低く、近町にある三上山(近江富士)が有名なので、鏡山はその影に隠れてあまり知られていない。しかしそれだけに静かで、又簡単に登ることができ、家をゆつくりと出かけた時や、子供連れのハイキングに適した山である。

I・R東海道本線の篠原駅で下車し、駅前の道を近江八幡の方に向かって歩く。始めての交差点を右折してI・Rの踏切を渡る。神社の前を通り次の変形十字路に出ると左折する。100mばかり進んでからヘアピンカーブの東辺に右折し、新幹線のガードを潜って、登山口のある鏡の村を目指す。周囲一面に田圃

が広がり、その先、鏡の村の家々の背後に、鏡山の姿が望まれる。

鏡の村で国道8号線を横断してさらに南下すると、竜王スケート場の入り口になる。ここに「竜王町ふるさと歴史の森」の案内板が立っていて、山頂まで2.800mと書いてある。

セキスイの工場の裏側に林道があり、入ると正止めになっている。ここには駐車スペースは無い。遊歩道は工場の最後の所から右折して林の中に入っていく。大谷池を過ぎると、少しして林道終点となる。

ここからまた新しい丸太階段の登山道に入る。雨々に道標が立っていて迷うことはない。ひと登りで階段上に出ると、岩の積み重なった「こんめ岩」がある。「こんめ」とはどういう意味だろうか。その先で新しい休憩所が立ち、展望が開ける。ひと休みしてさらに登ると、峰の中に丸太の鳥居が現れる。

道はここで二方に分かれるが、山頂部を一問しているのど、どちらをとっても結局ここに戻ってくる。

まっすぐに登って行くと、林の一方が開けて展望広場になる。丸太作りの約籠な展望台が二つあって見ると、近江平野が東に広がる。手すりに描かれた展望図で、次々と山を回

こんめ岩



定していく。あまり高くない山なのに素晴らしい眺めである。近江八幡の龍泉山・観音寺の龍山・太郎坊の岩峰・1等三角点のある三上山・その背後には、横山岳が伊吹山・龍泉山・更に鈴鹿の山々が南に長く連なっている。展望台からの眺めの中の道をひと登りすると、竜王山山頂である。山頂は標柱が立っているだけで、全く展望のない狭い所で、休憩もままならない。道はここから北の竜王社へ

鏡山付近略図



展望台

とまっすぐ行くが、鏡山の三角点へは北西に延びる尾根道に入る。今までの良い遊歩道から離れて1.2kmほど登ると、2等三角点の標石がある鏡山の山頂に達する。林に閉まれている展望は全くないが、わずかな切り開きから阿曇山のパラボラがのぞいている。ここは竜王町の遊歩道から外れていて、全く手入れがされていない。

竜王山に突っ込んで林の中を下ると、竜王社に出る。竜王社は大空を冠にした1mばかりの小さい社である。拝観らしい建物は、中が荒れてはいたが、雨宿りぐらゐは出来そうである。そのまま道をたどると龍泉の立つ遊歩道に合流する。

結局、展望台の手が一帯充分の良い所である。下山は登った道をそのまま下る。南の方にも下れるが、下山後の足が無い。

登山口の鏡の村までI・R野添駅からバス便があるようだが、便数が少ない。田圃の中の道は気分も良いので、往復とも歩いてみよう。

最近道が整備されたばかりで、新しい休憩所や展望台があり、道標も整備されていて、家族連れでも楽しい一日が過ごせるだろう。又、自産の鏡の村は、歴史のある村で、結構深いお寺なども話になるとよい。

(平成5年12月30日歩く)

ハコースタイム

I・R篠原駅(5分) 登山口案内板(5分) 展望台(10分) 鏡山三角点(往復コース)(地形図) 2方5分 近江八幡・野町



丹波の入り口

おおしやま

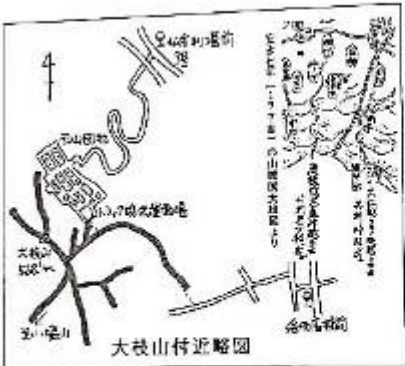
大枝山(大江山)

初級コース(★)

内田 嘉弘

丹波の国へ入る老ノ坂峠は、都と丹波を結ぶ大幹線。和泉式部、義経も越え、足利尊氏の六角輝攻め、明智光秀の本能寺攻めもこの峠を越え、都へ向かった。この老ノ坂峠の近くに大枝山がある。

『畿内路でつづる』京都の歴史「前原坂(二巻)」に「京府には二つの大江山がある。かつての丹波・丹後境にある標高800mの大江山と、京都市の西方にそびえ立つ総観を西山山地の大きな後部、若の坂峠があるあたり大江山(大枝山)である。古代・中世における大江山は、もっぱら後者をさしていたようである。たとえは、小式部内侍の、大江山いくの道の導ければ、まだふみもみず天の橋立



大枝山付近略図

に近づくと従って進行方向の左側に立派な山が見えてくる。都の方角からはこの山(688・1)の南にある小塩山(642)より大きく立派に見えるから、これが大江山(大枝山)と名わられていたのではないかと……。真交山岳部の坂井光武氏作成の「京都府下の1・2・3編区画図(八二二座)」ではこの山を8・1の峰を大枝山として載せている。同じくは「エリアマップ京都西山」(昨文社)では大枝山となっており、その調査執筆者松滋氏に山名のいわれを問い合わせたところ、

にしても、京・大江山・生野(現短畑山)一夫の橋立という地名の由来であり、かつ院政期の『梁塵秘抄』に収められた白歌は「大枝山生野の……」と表記されているから、これはまさしくなく丹波・山崎境の大江山のことである」と出ている。

昭和29年(1954)10月14日から朝日新聞京都版に「山と橋立」シリーズが始まり、第28回目に「大枝山」が紹介された。それには、丹波路の大江山は山嶽と丹波の国境、明治になって村制を敷くとき、「丹波・丹後境の大江山とまぎらわしい」と大枝の字を当てようになった。また首塚大明神のある老ノ坂は大江山がなまったものという。またこの西側の稚木山が登記簿に「東園市王子大江山」近くにあった金福寺院寺の山号も大江山「だった」という。この付近の山全体を、大江山と呼んだのでは……。また、首塚一帯は幕末まで陣町といわれ、天保年間にはお茶屋など27戸を数え、往來の人々にきわつたと載っていた。大福寺の山号が「大江山」であったことは、現在大枝陣町の金輪寺の境内に築かれた行打部(二、四保六年大江山天福寺)と刻まれた石碑に、さらさらわかる。毎朝は江戸時代まで亀山と呼ばれていた。阪神線通の後、亀山藩主松平直正が藩知事に

る(大身(たいし)こは氣槍裝束二十四節氣の大身を言ふ。一方語彙(ごんご)変転の説からは、小塩(おし)おし(山)が大(お)お(う)し(よ)と呼ばれたとも考案され……。私方独自の採用、振替考案のもの……。と)回答を頂いた。本来この山へは首塚大明神がある老ノ坂辺りから登るべきであるが、峠のすぐ南に京都市西蒲池土橋が出来、またその上の台地が西山岡地となつてから、登山コースとしては不向きになつてしまつてゐる。地形図(2万5千分の1「京都西北部」)を眺めてみると、この山から東へ西山岡地の横を通り、東園尾根から北瀬田町に向かって坂道が引かれてゐるから、これを辿つてみることにしよう。洛西高校前から一つ北の信乃が畑谷本通り、そこを左に折れ、突き当たりを右へ、約300mで左上へ上がる道がある。それを進むとすぐ西向きになり、東海自然歩道の花の寺と天和天皇御降臨の岡の地を一部辿つて、大山崎大枝線を辿つて、そのままたつ二区間、突き当たりの北瀬田町の駅がとどろく山線まで来ると、竹林が見えてきて鋪路石階段が地道になる。30分ほど入り竹林へ真っ直ぐ進む道を見送り、右の支路に登る山道が大枝山へのルートである。右はヒノキ、左は榎木林の中を中腹まで登ると左側が開け、洛西二ノ

【大福寺大江山の石灯籠(金輪寺)】



任された折に、伊勢亀山と混同されるので明治2年(1868)亀山を亀岡と改めた。この記事にある大江が大枝の字を当てようになつたのもこの時期であろう。また、『今昔物語集』の「具宗善丹波園男於大江山被遊講第二十三」めをくしてたんばのくににゆくをとおほえやまにたしてしほらあることたにじふさむ)もこの大江山(大枝山)のことである。大江山から山名が変わつた大枝山の位置については老ノ坂峠辺りであることは確かであるが、地形図に大枝山は記載されてない。しかし、御影山(大枝山)という地名が京都市西京区にある。昔の山崎街道は七条通から桂大橋を渡り、桂ノ原へ出て山崎の道を吾掛を越えて大江ノ坂(老ノ坂)を越えて丹波へ。この街道が京都

1タウンから桂、西京橋方面の街並が眼下に広がる。ふいふこの登り坂、所々細い近道があるが、それは避けて本道を走せ。向きが西になり、山道の傍に小山原の家が谷裡に出ている。それを過ぎると、西山岡地のトラツク協会の運動場の周囲からの道と出合う。ここから深木の中に入り、かりとした道が上へ延び、少しの登りマシの峠が近づき、それに沿うような藪りから左に回り込み小塩山への果つ感じ。ここを右に入ると大枝山である。この辺りは近郊林で防壁指定林になつていて、伐採が制限されているため樹齢は短い。また、別のコースとして円通寺峠の仏宮利谷前から西山岡地までジグザグの非道を通り、その岡地のトラツク協会の運動場の東端角から登山道に接続である。平成5年7月25日(土) 泉寺バス停出所 洛西自然歩道 伏木判明路

△コースタイム▽ 洛西高校前(初登)登山口(35分) トラツク協会運動場の橋(15分) 大枝山(約15分) 2万5千1「京都西北部」(地形図) 5万1「京都西北部」

仙ノ谷から

元越谷源流尾根縦走

中級コース(★★★) 岩野 明

毎年夏になると2〜3回は元越谷の沢登りを楽しんでいる。仙ノ谷をつらぬき、大洞の頭で登り、白龍山への尾根を下り、鞍部から再度仙ノ谷に下り、谷沿いの道を下る。この道は、生え込んでいく所もあるが、仙ノ谷上流には古い道がかなり残っている。下流は積林によって道がはっきりしない所もある。秋に、道をつらぬきやすくなるため、ブッシュを切り開き、要所に赤テープを張り付けた。このコースを利用して、夏はこの谷の涼しさを味わってほしい。

入り口の木に赤ペンキの印がある。この道を谷に沿って進むと道は消えてしまいはっきりしないが、赤ペンキが付いている。所々にテープも付いているので、見落とさないように、たどりながら進んでいく。

杉木立や二次林の中、2〜3回谷を渡ると再び道がはっきりしてくる。谷が狭くなり高くなる手前で右の支流に一旦登り、滝の右上を高登りして、又谷に入る。さらに進み、3回程度滝の右側を登った所が平流になっている。ここまでは、林道から約1時間。左に小さな谷があり、その上が橋の鞍部になっている。その小さな谷を渡り、テープをたよりに急斜面を登ると、前方が明るくなり、杉林の隙間に着く。展望も良く、正面に羽之岳と清水ノ瀬の鞍部が見える。左後縁の先に白龍山が見えるが、白龍山へは、杉の積林でかなり生え込みがあり、下刈りが終わらないかぎり歩けないだろう。

大洞の展望



大洞



更に登ると尾根の縦走路に出会い、後は眺望を楽しみながら、水尻岳(1029m)から水尻峠、イワクラ尾根道の分岐を過して宮原岳へと登る。この木がしばらく下った所に、青文くらしいの二俣の木があり赤テープが巻き付けてある。三番尾根に少し登ると、大岩の上に出る。岩の上はかなり広く、正面に入道ヶ岳と四日市方面が見える。そそり立つ花崗岩の上から下を見下ると目が眩みそうだが、下りは、林道を通って猪俣峠に出る。林道を下ると、中のあるゲートに出る。このコース、逆ルートで下りに仙ノ谷を通る場合は、大洞ノ頭で90度左に曲がるのである。

このナメ道を登ると二俣になる。中央の尾根を登ると、宮原岳の西のピークに着く。この尾根は落ち着いたすばらしい樹林帯で、下草は全然ない。一度通ったら忘れられないルートになるだろう。

近畿の山 日帰り沢登り

中庄谷 直・吉岡 章著 四六判・二〇〇〇円 夏山の醍醐味は沢登り。本書ではハードな沢を除き、のんびり水とたわむれ、遊べる比較的易しい沢を52、詳細な地図付きでガイド。

初登山 今西錦司 初期山岳著作集

今西 錦司 著 四六判・二八〇〇円 京都北山は非なるかな。15歳の富士登山から28歳まで、京一中、三河、京大時代の山岳著作を未発表原稿も含めて網羅。

ナカニシヤ出版 京都市左京区吉田二本松町2 電話 075-751-1211 千606

山岳夜話(第4回)

小泉 誓純

再会回

「もちろんだよ。その度量のないヤツがあれ...」

人間は決して神さまになることはできない...

「ここへ登ったの？」

メシに間に合う時間には、まず無理だなあ」

「この調子じゃあ、一時間半くらいかかるん...

「は小屋の前をたっぴりど流れている。狭...

0.0に余りもザイル伝いに降りていく。山慣れている私でも「の足を踏む様な急坂を、20位のポリタンクを担いで登って行く。病気を治す為には何事も厭わない人々の熱意に、驚きの連続であった。(山形 虎之)

四月山行報告

6日 山金又刺(2万5千)河合(1)へ。下池原「ながい」泊。
7日 山金下森原(同)池原(同)山金球保(同)高見山(同)11日「大和登山会」例会。吉野神社下・中千木。参加者名。17日「沢のこころ」例会。II
山心身ノ峠(同)洞川(同)山金西川(同)新子(同)へ。参加者名。22日 山金相田(同)南日原(同)へ。山金野山(同)同(同)へも止ち寄る。計三〇五名。76%。
24日 伏見公民館ラウンドアコース南・開講式。今年度も講師。29日 加守庵寺(六倉堂発掘現場)・雄岳・山金女座(同)大相高田(同)榎石(同)止上(同)に集く。30日 五葉良リビンジ登山教室の講師として、I山神野山(同)大相白石(同)へ。参加者名。

(下田 健弘)

9年前の7月、サークルの仲間17人で彦根よりタクシーで河内風穴に立ち寄り、霊仙山をめざした。私は汗拭き手前であつた。私に汗拭き手前であつた。前方でO氏が立ち止まって待たせてくれたので追いつくと、O氏は腰裡下45度ほど斜近を指さして「サツマイモのようなものが白い霧の中に見える」と。よく見るとへじの紙皮のように思えるが、何か分からない。早速カメラを向けてシャッターを切った。苦に追いつき、このことを記すと「ツチノコではないか?」と云う。お虎ヶ池付近まで登ったが急にガスがひどくなり、昼食をとって霊仙場へ下山した。しばらくマヌ釣りなどをして帰宅した。後日、写真を現像してみたが何も写ってはいなかった。無意味がボケていたのかも知れない。全自動カメラならよかつたのだが……。サークルでは今年も霊仙山をめざすぞうだが、もう一度あの「ツチノコ」を見てみたい。最近では一時のようなツチノコさわぎもないようだけど、あの光景は夢ではない。

私にもO氏も絶対に忘れないであろう。(林 吟次郎)

滋賀県側から鈴鹿の山々に登るルートは、ほとんど人が通らないため、色々な動物達に出会うことができる。私は動物達との出会いを楽しみに毎年約同近鈴鹿の山へ登っている。近年暖冬が続き、動物達もかなり増えているようだ。平成3年から3年間に出会った動物達は、鹿(頭)・猿(約100匹)・カモシカ(17頭)・猪(頭)・山鳥(羽)・リス・狐・狸・兎・キジ・イヌワシなどである。

この中でカモシカはあまり変わらないようだ。鹿は4〜5年前までは余り見かけなかったが、近年登る序で出会うようになった。特に雨を笠付近にはかなり感じているようだ。平成は10月、ノブ木山城を歩いた時はも頭確認した。オス2頭が、甘い鳴き声でメスを追いつくのを見た。清水ノ頭にも10頭はいる。田村湖・猪足谷林道の南斜面にも4頭いる。その他滋賀県側の山々にはかなり確認しているものと思われる。(山野 明)

ハイキング・キャンプに、鈴鹿県定公園 朝明沢谷 あさけ茶屋 〒510-0112 三重県三重郡野町千草 電話 0593-930317-89

会員募集

小さな旅の会 私達は、日・祝日の余暇を利用して、旅行やハイキングなどを進めての会合間の親睦を目的にしたグループであり、活動を始めて11年目になりました。月2回の例会でワイワイバスツアーや散策程度の時もあり、参加者が30名を越える時もあります。

無理せずのんびりとアウトドアを楽しんでおります。会について知りたい方、又入会希望者は御連絡下さい。年齢・性別は問いません。

事務局 眞面目な4の8の8 篠原6号 寺山英男まで 〒5662

山行計画
新ハイキングクラブ関西

このページの山行計画には、「会員に限定」と特記してあるほかは会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって出発の7日前までに到着するように係あて申し込んでください。「費用」のほかに参加名簿代その他の資料代費用を頂くことがあります。山行中止は申込み後参加できなくなった場合は急いで係に連絡してください。体調の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料(白紙500円)・夜行日相りの参加料(1000円)を支出して頂きます。(A-100保険料は別表参照)

傷害保険特約内容は次の通りです。
死亡・後遺障害保険金額 1000万円
入院保険金 50000円
通院保険金 25000円

(記入例)
(往復ハガキ使用)

山行き申込み書

山行 期日 住所 〒 電話番号 氏名 会員番号 (会員でない方は会員外と記入) 生年月日 緊急時の連絡先

返信用ハガキ宛て名欄にご自分の住所氏名を記入してください。

鈴鹿・釈迦ヶ岳(徳別向き)
期日 7月3日(日)日帰り
集合 近鉄湯の山温泉駅9時
コース 湯の山温泉駅→朝明沢谷→鹿野ノ滝→釈迦ヶ岳→羽鳥陣→朝明沢谷→湯の山温泉駅
費用 保険代50円・交通費各自
地図 昭文社「45御在所・鎌ヶ原」
係 ○稲垣逸夫 ○島崎英五
申込み 〒519-003 津城市大久保町2065 稲垣まで 定員25名(5名以上のグループ参加は、リーダーをつけて下さい)
応募ノ滝から釈迦ヶ岳をめざす。急登あります。小雨決行

費用 保険代50円・交通費各自
地図 昭文社「47京都北山1」
係 ○前中 毅
申込み 〒610-001 城陽市寺王大路10の10 新ハイキング関西まで
雲霧さんへはおなじみの本会会費を歩く。湯滝バスプールへ直行の方は、申し込み書に断記して下さい。小雨決行

平白木嶽ハイブク2
愛宕山から竜ヶ岳(二股向き)
期日 7月7日(日)日帰り
集合 京都駅 中央郵便局東の京都バス乗り場8時30分
コース 湯滝バスプール8時40分 京都駅→湯滝→雲行神社→竜ヶ岳→首無地蔵→湯滝(解散17時30分頃)

湖北・横山岳(やま徳別向き)
期日 7月10日(日)日帰り
集合 JR京都駅八条口バスターミナル7時30分
コース 京都駅→名神→木ノ本IC→杉野→白谷出合→五峰→子ノ滝→横山岳→湯滝→コエテ谷→杉野→五峰駅
費用 約5000円
地図 5万1横山 2万5千1
係 ○山田哲俊 ○上川 崇
申込み 〒610-010 城陽市寺田大路10の10 村田まで
湖北の山では人気No.1の山。山頂はブナ林に囲まれ静かな雰囲気である。五峰ノ滝から急登あり。小雨決行(バス山行)

つた人も……。花にはまはらずさ
たが、節分草と福若草には出金又
た。

(参加者) 平 龍一 石田真由美
平 幸子 本村好和 宇高美太郎
藤田和洋 石田輝子
杉山久子 山本雅子 山崎加奈子
新井孝代 長比海美 中六ひろみ
竹内正一 松村立美 武田悦子
中西信行 村田知俊 大矢知正
大矢知田鶴子 ○新井幸夫
○近藤英五 ○龍田逸夫(計28名)

緑坂峠から半田山

3月27日(日) 晴れ
京都駅 8・30(集合) 8・40大
森山町 9・40 55 緑坂峠 10・30
12・00 半田山 12・15 谷谷峠
13・30 半田山 13・45 谷谷峠
終点 14・05 30 小野郷 15・00 25
1 京都駅 15・25 終点
練習があった。春の匂をテン
ラでたのしんだ。世間新緑へは現
在で滑りやすいので、岩谷峠から
小野郷へ下山した。
(参加者) 湯浅次男 前田幸子
木島清子 松村泰男 前田 教
芝野泰明 鈴木雅雄 前田政雄

三宅 明 妹尾義行 金山元也
竹田利夫 養野孝治 田原司理
堀野英藏 中村英雄 中村美英子
奥比佐夫 藤田弘子 岡田美英子
岡田 昇 井藤正昭 石橋英夫
古田 寛 岡本敏一 小谷利枝子
小島陽枝 藤田敏生 佐々木文江
宮野喜重 藤田寛子 岡野なほ乃
永田博英 古村昌信 古村ミサヲ
古村時子 藤野 勇 織部むつ美
高橋 寛 藤田洋雄 安田文美江
竹内正三 林 弘毅 柳本合次郎
村下俊子 下村啓三 上井美穂子
竹林和子 藤田幸子 上井美穂子
深谷 寛 仲秋一郎 仲秋雄子
日高文緒 東 直美 藤本建一
吉田正二 藤田陽義 積田とし子
阪田 昇 岡田 寛 渡多野恵子
南 寛子 ○中西信行
○村田智俊 (計65名)

水井山・龍虎山(箱園家)

4月3日(日) 晴れ
出町柳バスターミナル 8・30 32
11 野町 破れ 9・00 40 仰木峠
10 50 11 30 水井山 12 15 屋
倉 13 30 龍虎山 13 20 25
三塚村 13 20 25 釈迦堂 14 30
1 ケーブル山上駅 15 15 20 八

藤原博 15・30 (解散)
よく晴れた春の一日、実際の山
の尾根や谷が南国でどのように現
現されているか、又コンパスの使
い方・磁北線の引き方・山形測定
の仕方などレクレーションした。
(参加者) 木村 利 馬場政行
藤原孝子 坂野正則 谷口とも子
多田正博 多田幸子 阪田 昇
青木恒敏 佐古英典 松本 勇
藤田光彦 中西 昭 中西和子
大津 寛 奥比佐夫 藤田幸子
小西豊雄 鈴木雅雄 藤月ミツロ
辻本慧子 上羽 敏 上田千枝子
岩崎邦夫 青木重雄 小笠原政雄
中村 登 神谷君子 佐々木静子
北川昌子 熊木秀雄
○村田智俊 ○小笠原敏子
(計33名)

蜀水山から再展公園

4月10日(日) 晴れ
海鏡新開地 9・00(集合) 9・
22 蜀水山 9・30 蜀水山
10 30 45 龍雲山 11 45 再展
公園 12 05 意匠区 13 00 大倉
寺 13 15 25 市ヶ原 13 50 14
30 新神戸駅 15 15 (解散)
山の核はまだ開花していない。

ゆつくりのんびりと西六甲峠を
歩いた。山里の核は開花だった。
(参加者) 深谷正夫 木島清子
西田一夫 長比海美 柳 礼子
藤田弘子 和田清樹 妹尾義行
三木昌子 湯浅次男 竹田利夫
高橋 寛 岡田 昇 岡田美英子
西野喜重 藤田幸子 若松 登
若松好子 香野喜隆 井藤正昭
平 幸子 下村啓三 上井美穂子
相定保夫 井上隆二 中西信行
○上村 操 ○村田智俊(計28名)

桜井から黒谷寺

4月17日(日) 晴れ
近鉄桜井駅 9・00(集合) 9・20
1 前在道市路 10 00 五列神社
10 30 白山神社 11 10 12 狂
神社 11 40(解散) 12 25 黒谷
寺 13 00 15 00 近鉄黒谷駅
16 00(解散)
ハクネギレン・レンギョウ・ユ
キヤナギ・ツヤクナゲ・藤葉・
しだれ桜(桜吹雪)・ホクタンが咲き
乱れていた。
(参加者) 三木辰子 新井竹子
武田輝雄 内山 亨 山内美子
林 田雄 山本 勉 山口与次
藤原博男 美村三枝 伊藤隆雄(香

吉野 房 尾崎次朗 百原康文
津野貞志 岡野 修 木谷信也
高野 剛 榎本伸介 平井伸和
森本琢磨 倉野正紀 久米敏之
坂口 潤 松永良平 松水めぐみ
松永まこと ○松永一(計28名)

西福徳院と龍虎山

4月26日(日) 24日(日) 1 治 2日
(1) 日(日) 雨 舞鶴駅 10 00 舞
倉 10 20 11 西福徳院 11 50 12 舞
鶴 11 30 龍虎山 11 50(散
集) 12 40 大福神社 13 20 14
20 水室池 15 15 湯草吹 15 30
1 龍虎山 Y 15 10(散集)
(2) 日(日) 晴れ 龍虎山 Y 15 30
35 いすも岩 9 45 大天井岳
10 20 50 龍虎山 三角点 11 20
1 龍虎山 12 00 寶野神社 14 30
1 龍虎山 Y 14 20 16 20 1 姫
路駅 17 20(解散)
そうめん流しから水室池への山頂
自然歩道を雨の少ない。翌日は
晴天に恵まれ、アネホノツツシが
満開で鳥居山の急登の苦しさを忘
れさせてくれるほどだった。
(参加者) 深谷正夫 山本美英子
西崎博雄 京井 正 岡田美英子
岡田 昇 仲秋一郎 仲秋雄子

日高史郎 奥比佐夫 渡辺謙郎
藤原史朗 前田政雄 金井 己
鶴本将司 布原清美 山本敏郎
山 和子 和田直樹 井上美恵子
辻 和子 阪上義夫 井上 保
恩利誠治 若松 登 若松好子
○村田智俊 ○須藤岡 組
(計28名)

新ハイキングクラブ開園

入金の手配
このページの山行例会を通して
正しい山歩き、たのしい山仲間
たちと味わいませんか。リーダー
はすべて兼務の兼任で、各
日、印符を買い兼務を払い、宿泊
料もすべてワリカンです。
あなたも新ハイキングクラブ開
園に入会してたのしい仲間にな
りませんか。会費には標準一歩ハ
イキング・別冊関西の山・山開園
月6冊分をお付けします。会費
はこのページの山行例会に参加で
きます。
入会金 500円(パスポート代)
年会費 2500円(送付代)
新ハイキングクラブ開園への入
会申し込みはこの雑誌に挿入の振
替用紙をご利用下さい。雑誌が

の送本せよと「明平さま」。
向、定期購読を御希望される方
も会員になって頂きますと、標準
振込にお支払に届きますので便利
です。

○新入会費紹介(1844名)

岡本隆夫 西山大朗 西川 実
鈴木敏郎 林 孝子 大畑 実
鈴木隆一 牧 良平 牧 公平
寺下 誠 水野源江 藤多野恵子
藤村光江 安岡哲夫 吉田富美代
谷村英一 西谷孝子 山下幸太郎
藤田幸子 岩澤美子 沢田義雄
中沢敏子 松尾敏一 松尾久七子
岡本正雄 中山真洋 山下克彦
金山元也 高入 浩 高木みつこ
大山輝浩 藤野清子 佐々木静子
伊藤隆雄 衣笠信夫 林 美穂子
松本彰 山井宏一 杉本初一
藤井徳之 関口恵子 夏藤 誠
斎藤孝子 寺 久代 永井 誠
井井敏子 藤 聡 香井功一郎
井上智恵子 神谷君子
妹尾一行 飯原公代 酒井一彦
大橋重司 大橋 勉 井上 寛
市来 学 藤枝登子 岩川八朗
野野良一 芝野泰明 川口智文
細川敏夫 藤原史朗 藤原孝子

有本隆行 有友真菜 板倉美津子
高田英幸 藤藤美代 中井 廣
西川幸太 松子良三 沢田正敏
沢田栄子 真伏 昭 松田哲郎
松田静江 高田 賢 太田利雄
太田正樹 堀 春雄 榎井紀夫
森山 勉 川田洋子 辻 嘉一朗
出村吉司 前田忠志 宮崎雄子
小林千咲 大橋隆雄 宮崎知子
藤原美智子 小池佐大郎

16号「初巻」16号「初巻」10
ページの「龍虎山」の「向むこう」に見
える山は「向うに見える山」が
正しい。
16号「初巻」30ページと50中央の
千里ヶ峰の山名は井大学の山形部
がつけた仮称で本来は龍虎山であ
る。
16号「初巻」62ページ「龍虎山」の
目「1」の「龍虎山」は「龍虎山」
が正しい。
16号「初巻」75ページ「四野山」行
目の係松水也氏の住所は「58
〇松原市」とのところが正しい。
16号「初巻」75ページ「四野山」行
目の係松水也氏が正しい。